

○ 土地改良事業等請負工事標準歩掛（昭和 58 年 2 月 28 日 58 構改D第 148 号農林水産省構造改善局長通知）一部改正新旧対照表

(下線部は改正部分)

改 正 後	現 行																																																																								
<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>①・② [略]</p> <p>③ 機械施工の共通事項</p> <p>1. ～3. [略]</p> <p>4. 機種の選定 4-4-2 機種選定表（掘削・積込・運土作業）</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">表 4. 5 機種選定表（掘削・積込・運土作業）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th>機 種</th> <th>規 格</th> <th>作業の種類</th> <th>摘 要 区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バ ッ ク ホ ウ</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>2t 積級 4t 積級 10t 積級</td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>スクレープドーザ (農用地造成工事)</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>被けん引式 スクレーパー (農用地造成工事)</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>レーキドーザ (農用地造成工事)</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 上表で示す土量は、1 工事当りの扱い土量である。 2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。</p> <p>④ ブルドーザ掘削押土</p> <p>1.・2. [略]</p> <p>3. 施工歩掛 ブルドーザによる各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。</p> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">表3. 1 日当り施工量 (1日当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">規 格</th> <th rowspan="2">土 質 名</th> <th colspan="2">数 量 (m³)</th> </tr> <tr> <th>地山の掘削押土</th> <th>ルーズな状態の押土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブルドーザ 運 転</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">[略]</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1.・2. [略] 3. 「ルーズな状態の押土」作業は、湿地 20 t 級を適用する。 4. ～6. [略]</p> <p>4. [略]</p>	機 種	規 格	作業の種類	摘 要 区 分	バ ッ ク ホ ウ			[略]	ダンプトラック	2t 積級 4t 積級 10t 積級		[略]	スクレープドーザ (農用地造成工事)			[略]	被けん引式 スクレーパー (農用地造成工事)			[略]	レーキドーザ (農用地造成工事)			[略]	名 称	規 格	土 質 名	数 量 (m ³)		地山の掘削押土	ルーズな状態の押土	ブルドーザ 運 転			[略]		<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>①・② [略]</p> <p>③ 機械施工の共通事項</p> <p>1. ～3. [略]</p> <p>4. 機種の選定 4-4-2 機種選定表（掘削・積込・運土作業）</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">表 4. 5 機種選定表（掘削・積込・運土作業）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th>機 種</th> <th>規 格</th> <th>作業の種類</th> <th>摘 要 区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バ ッ ク ホ ウ</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>2t 級 4t 級 10t 級</td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>スクレープドーザ (農用地造成工事)</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>被けん引式 スクレーパー (農用地造成工事)</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> <tr> <td>レーキドーザ (農用地造成工事)</td> <td></td> <td></td> <td>[略]</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 上表で示す土量は、1 工事当りの扱い土量である。 [新設]</p> <p>④ ブルドーザ掘削押土</p> <p>1.・2. [略]</p> <p>3. 施工歩掛 ブルドーザによる各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。</p> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">表3. 1 日当り施工量 (1日当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">規 格</th> <th rowspan="2">土 質 名</th> <th colspan="2">数 量 (m³)</th> </tr> <tr> <th>地山の掘削押土</th> <th>ルーズな状態の押土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブルドーザ 運 転</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">[略]</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1.・2 [略] 3. 30,000m³以上の「ルーズな状態の押土」作業は、湿地 20 t 級を適用する。 4. ～6. [略]</p> <p>4. [略]</p>	機 種	規 格	作業の種類	摘 要 区 分	バ ッ ク ホ ウ			[略]	ダンプトラック	2t 級 4t 級 10t 級		[略]	スクレープドーザ (農用地造成工事)			[略]	被けん引式 スクレーパー (農用地造成工事)			[略]	レーキドーザ (農用地造成工事)			[略]	名 称	規 格	土 質 名	数 量 (m ³)		地山の掘削押土	ルーズな状態の押土	ブルドーザ 運 転			[略]	
機 種	規 格	作業の種類	摘 要 区 分																																																																						
バ ッ ク ホ ウ			[略]																																																																						
ダンプトラック	2t 積級 4t 積級 10t 積級		[略]																																																																						
スクレープドーザ (農用地造成工事)			[略]																																																																						
被けん引式 スクレーパー (農用地造成工事)			[略]																																																																						
レーキドーザ (農用地造成工事)			[略]																																																																						
名 称	規 格	土 質 名	数 量 (m ³)																																																																						
			地山の掘削押土	ルーズな状態の押土																																																																					
ブルドーザ 運 転			[略]																																																																						
機 種	規 格	作業の種類	摘 要 区 分																																																																						
バ ッ ク ホ ウ			[略]																																																																						
ダンプトラック	2t 級 4t 級 10t 級		[略]																																																																						
スクレープドーザ (農用地造成工事)			[略]																																																																						
被けん引式 スクレーパー (農用地造成工事)			[略]																																																																						
レーキドーザ (農用地造成工事)			[略]																																																																						
名 称	規 格	土 質 名	数 量 (m ³)																																																																						
			地山の掘削押土	ルーズな状態の押土																																																																					
ブルドーザ 運 転			[略]																																																																						

⑤ バックホウ掘削

1.・2. [略]

3. 小規模土工

3-1 [略]

3-2 機種の選定

各作業に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業の種類	作業内容	機種	規格	摘要
掘削積込 積込			[略]	
舗装版 破碎積込			[略]	
床掘			[略]	
運搬	-	ダンプトラック	4t積級	[略]
			2t積級	[略]

(注) [略]

3-3~3-5 [略]

3-6 運搬作業

3-6-1 施工歩掛

運搬作業の施工歩掛(土砂)は、次表を標準とする。

表3.6 運搬作業施工歩掛(BH加-5型又は加-5型後方超小旋回型 山積0.28m³(平積0.2m³)+DT4t積級)
(日/10m³)

運搬距離	D I D 区間：無し	運搬距離	D I D 区間：有り
[略]	[略]	[略]	[略]

表3.7 運搬作業施工歩掛(BH加-5型 山積0.13m³(平積0.1m³)+DT2t積級) (日/10m³)

運搬距離	D I D 区間：無し	運搬距離	D I D 区間：有り
[略]	[略]	[略]	[略]

4. 単価表

(1)~(8) [略]

(9) ダンプトラック運搬10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	4 t 積級又は2 t 積級	日	D	表3. 6、表3. 7
計				

(注) [略]

(10) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
[略]			
ダンプトラック (小規模土工)	4t積級		[略]
ダンプトラック (小規模土工)	2t積級		[略]

⑤ バックホウ掘削

1.・2. [略]

3. 小規模土工

3-1 [略]

3-2 機種の選定

各作業に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業の種類	作業内容	機種	規格	摘要
掘削積込 積込			[略]	
舗装版 破碎積込			[略]	
床掘			[略]	
運搬	-	ダンプトラック	4t積	[略]
			2t積	[略]

(注) [略]

3-3~3-5 [略]

3-6 運搬作業

3-6-1 施工歩掛

運搬作業の施工歩掛(土砂)は、次表を標準とする。

表3.6 運搬作業施工歩掛(BH加-5型又は加-5型後方超小旋回型 山積0.28m³(平積0.2m³)+DT4t)
(日/10m³)

運搬距離	D I D 区間：無し	運搬距離	D I D 区間：有り
[略]	[略]	[略]	[略]

表3.7 運搬作業施工歩掛(BH加-5型 山積0.13m³(平積0.1m³)+DT2t) (日/10m³)

運搬距離	D I D 区間：無し	運搬距離	D I D 区間：有り
[略]	[略]	[略]	[略]

4. 単価表

(1)~(8) [略]

(9) ダンプトラック運搬10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	4 t 積又は2 t 積	日	D	表3. 6、表3. 7
計				

(注) [略]

(10) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
[略]			
ダンプトラック (小規模土工)	4t積		[略]
ダンプトラック (小規模土工)	2t積		[略]

⑥～⑧ [略]

⑨ ダンプトラック運搬

1. 適用範囲

本歩掛は、バックホウまたはクラムシェルで積込みダンプトラック 10t 積級により運搬する作業及び、人力で積込みダンプトラック 2t 積級により運搬する作業に適用する。

2. 施工歩掛

バックホウ、クラムシェル及び人力で積込、ダンプトラックで運搬する場合、土砂 100m³当り運搬日数は、次表によって求める。

2-1 土砂 100m³当り運搬日数

2-1-1 バックホウ 山積 0.8m³ (平積 0.6m³) +ダンプトラック (10t 積級)

表 2. 1 [略]

2-1-2 バックホウ 山積 1.4m³ (平積 1.0m³) +ダンプトラック (10t 積級)

表 2. 2 [略]

2-1-3 バックホウ 山積 0.45m³ (平積 0.35m³) +ダンプトラック (10t 積級)

表 2. 3 [略]

2-1-4 クラムシェル 0.8m³+ダンプトラック (10t 積級)

表 2. 4 [略]

2-1-5 クラムシェル 0.4m³+ダンプトラック (10t 積級)

表 2. 5 [略]

2-1-6 人力+ダンプトラック (2t 積級)

表 2. 6 [略]

2-2 [略]

3. 単価表

(1) ダンプトラック運搬 100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	○ t 積級	日	D	表 2. 1～表 2. 6
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	10 t 積級		[略]
ダンプトラック	2 t 積級		[略]

⑩～⑱ [略]

⑥～⑧ [略]

⑨ ダンプトラック運搬

1. 適用範囲

本歩掛は、バックホウまたはクラムシェルで積込みダンプトラック 10t 車により運搬する作業及び、人力で積込みダンプトラック 2t 車により運搬する作業に適用する。

2. 施工歩掛

バックホウ、クラムシェル及び人力で積込、ダンプトラックで運搬する場合、土砂 100m³当り運搬日数は、次表によって求める。

2-1 土砂 100m³当り運搬日数

2-1-1 バックホウ 山積 0.8m³ (平積 0.6m³) +ダンプトラック (10t 積車)

表 2. 1 [略]

2-1-2 バックホウ 山積 1.4m³ (平積 1.0m³) +ダンプトラック (10t 積車)

表 2. 2 [略]

2-1-3 バックホウ 山積 0.45m³ (平積 0.35m³) +ダンプトラック (10t 積車)

表 2. 3 [略]

2-1-4 クラムシェル 0.8m³+ダンプトラック (10t 積車)

表 2. 4 [略]

2-1-5 クラムシェル 0.4m³+ダンプトラック (10t 積車)

表 2. 5 [略]

2-1-6 人力+ダンプトラック (2t 積車)

表 2. 6 [略]

2-2 [略]

3. 単価表

(1) ダンプトラック運搬 100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	○ t 積	日	D	表 2. 1～表 2. 6
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	10 t 積		[略]
ダンプトラック	2 t 積		[略]

⑩～⑱ [略]

2. 共通工

①～④ [略]

⑤ 裏込工（ブロック積・ブロック張）

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 裏込工歩掛

裏込工歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 裏込工歩掛 (10㎡当り)

名	単位	積ブロック	張ブロック
世話役	人	0.5	0.4
普通作業員	〃	1.4	0.8
諸雑費率	%	12	16

(注) [略]

4.・5. [略]

⑥～⑨ [略]

⑩ 人力小運搬

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 人肩運搬

人肩による硬質ポリ塩化ビニル管、コンクリート二次製品、鋼材等の小運搬歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 [略]

3-2 [略]

4. [略]

⑪ [略]

2. 共通工

①～④ [略]

⑤ 裏込工（ブロック積・ブロック張）

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 裏込材投入歩掛

裏込材投入歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 裏込材投入歩掛 (10㎡当り)

名	単位	積ブロック	張ブロック
世話役	人	0.5	0.4
普通作業員	〃	1.4	0.8
諸雑費率	%	7	8

(注) [略]

4.・5. [略]

⑥～⑨ [略]

⑩ 人力小運搬

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 人肩運搬

人肩による塩化ビニル管、コンクリート二次製品、鋼材等の小運搬歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 [略]

3-2 [略]

4. [略]

⑪ [略]

⑫ 舗装版取壊し工

1. 舗装版切断工

1-1・1-2 [略]

1-3 機種を選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 1. 1 機種選定表

切断深(cm)	15以下	30以下	40以下
コンクリートカッタ規格	ハキューム式 切削深 20cm 級	ハキューム式 切削深 30cm 級	ハキューム式 切削深 40cm 級
プレート規格	22 インチ (56cm)	30 インチ (75cm)	38 インチ (96cm)

(注) [略]

1-4 編成作業人員

舗装版を切断する作業の編成人員は、次表を標準とする。
なお、作業内容はマーキング、切断補助及び路面清掃等である。

表 1. 2 [略]

1-5 施工歩掛

舗装版を切断する作業の施工歩掛は、次表を標準とする。舗装版とりこわしの場合の切断深さは、原則として舗装版全厚を切断する。

1-5-1 アスファルト舗装版を切断する作業の施工歩掛

表 1. 3 施工歩掛

名 称	単 位	アスファルト舗装版厚		
		15cm 以下	15cm を超え 30cm 以下	30cm を超え 40cm 以下
施工量 (C ₁)	m/日	240	170	120
プレート損耗量	枚/100m	0.21		

(注) 1. [略]
2. 舗装版切断時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合は、別途考慮する。

1-5-2 コンクリート舗装版及びコンクリート+アスファルト(カバー)舗装版を切断する作業の施工歩掛

表 1. 4 施工歩掛

名 称	単 位	コンクリート舗装版厚	
		15cm 以下	15cm を超え 30cm 以下
施工量 (C ₂)	m/日	150	70
プレート損耗量	枚/100m	0.61	

(注) 1.・2. [略]
3. コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の場合、全体厚が 40cm を超える時は別途考慮する。
4. [略]
5. 舗装版切断時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合は、別途考慮する。

1-6 諸雑費

諸雑費は、水タンク等の運搬用トラックの損料及び運転経費、水タンク、汚水タンク、ホース、ほうき等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 1. 5 [略]

1-7 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
コンクリートカッタ	ハキューム式 切削深 20cm 級	機-23	燃料消費量 →21 機械損料数量 →1.00

⑫ 舗装版取壊し工

1. 舗装版切断工

1-1・1-2 [略]

1-3 機種を選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 1. 1 機種選定表

切断深(cm)	20以下	30以下	45以下
コンクリートカッタ規格	走行式プレート 径 45~56cm	走行式プレート 径 75 cm	走行式プレート 径 96~106cm
プレート規格	22 インチ (56cm)	30 インチ (75cm)	42 インチ (106cm)

(注) [略]

1-4 編成作業人員

舗装版を切断する作業の編成人員は、次表を標準とする。
[新設]

表 1. 2 [略]

1-5 施工歩掛

舗装版を切断する作業の施工歩掛は、次表を標準とする。舗装版とりこわしの場合の切断深さは、原則として舗装版全厚を切断する。

1-5-1 アスファルト舗装版を切断する作業の施工歩掛

表 1. 3 施工歩掛

名 称	単 位	アスファルト舗装版厚	
		20cm 以下	20cm を超え 40cm 以下
施工量 (C ₁)	m/日	220	140
プレート損耗量	枚/100m	0.21	

(注) 1. [略]
2. 舗装版切断時に発生する濁水の収集・運搬・処理が必要な場合は、別途考慮する。

1-5-2 コンクリート舗装版及びコンクリート+アスファルト(カバー)舗装版を切断する作業の施工歩掛

表 1. 4 施工歩掛

名 称	単 位	コンクリート舗装版厚		
		20cm 以下	20cm を超え 30cm 以下	30cm を超え 35cm 以下
施工量 (C ₂)	m/日	170	70	40
プレート損耗量	枚/100m	0.61		

(注) 1.・2. [略]
3. コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の場合、全体厚が 45cm を超える時は別途考慮する。
4. [略]
5. 舗装版切断時に発生する濁水の収集・運搬・処理が必要な場合は、別途考慮する。

1-6 諸雑費

諸雑費は、水タンク運搬用トラックの損料及び運転経費、水タンク、_____ホース、ほうき等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 1. 5 [略]

1-7 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
コンクリートカッタ	走行式プレート 径 45~56cm	機-23	燃料消費量 →12 機械損料数量 →1.00

	ハキューム式 切削深 30cm 級	機-23	燃料消費量 →31 機械損料数量 →1.00
	ハキューム式 切削深 40cm 級	機-23	燃料消費量 →31 機械損料数量 →1.00

2. [略]

⑬～⑮ [略]

⑯ アンカー工（ロータリーパーカッション式）

1. 適用範囲

本歩掛は、ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、アンカー鋼材にて引張力を地盤に伝達するグラウンドアンカー工法に適用する。

2. ～4. [略]

⑰ [略]

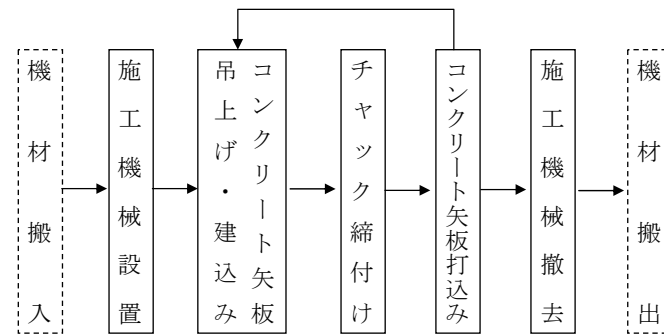
⑱ コンクリート矢板工

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

図2-1 バイプロ工法



※導材（ガイド）の施工を含む。

（注）本歩掛で対応しているのは実線部分のみである。

図2-2 [略]

3. ～7. [略]

	走行式プレート 径 75 cm	機-23	燃料消費量 →26 機械損料数量 →1.00
	走行式プレート 径 96～106cm	機-23	燃料消費量 →31 機械損料数量 →1.00

2. [略]

⑬～⑮ [略]

⑯ アンカー工（ロータリーパーカッション式）

1. 適用範囲

本歩掛は、ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、アンカー鋼材にて引張り力を地盤に伝達するグラウンドアンカー工法に適用する。

2. ～4. [略]

⑰ [略]

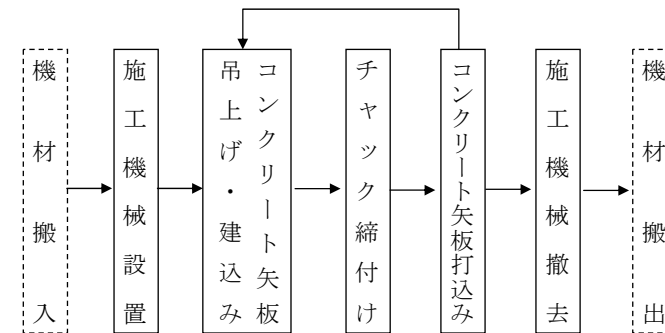
⑱ コンクリート矢板工

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

図2-1 バイプロ工法



※導材（ガイド）の施工を含む。

[新設]

図2-2 [略]

3. ～7. [略]

3. コンクリート工

①～⑥ [略]

⑦ ダウエルバー取付

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

表 3. 1 ダウエルバー取付歩掛 (10本当り)

異形棒鋼		硬質ポリ塩化ビニル管		世 話 役 (人)	普通作業員 (人)
径	数量 (t)	径	数量 (本)		
D16	0.016	VP-φ20	1.25	0.03	0.14
D19	0.023	VP-φ25			
D25	0.040	VP-φ30			

4. 単価表

(1) ダウエルバー取付 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
異 形 棒 鋼		t		表 3. 1
硬質ポリ塩化ビニル管		本	1.25	"
世 話 役		人	0.03	"
普 通 作 業 員		"	0.14	"
計				

3. コンクリート工

①～⑥ [略]

⑦ ダウエルバー取付

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

表 3. 1 ダウエルバー取付歩掛 (10本当り)

異形棒鋼		塩化ビニール管		世 話 役 (人)	普通作業員 (人)
径	数量 (t)	径	数量 (本)		
D16	0.016	VP-φ20	1.25	0.03	0.14
D19	0.023	VP-φ25			
D25	0.040	VP-φ30			

4. 単価表

(1) ダウエルバー取付 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
異 形 棒 鋼		t		表 3. 1
塩 化 ビ ニ ー ル 管		本	1.25	"
世 話 役		人	0.03	"
普 通 作 業 員		"	0.14	"
計				

4. 基礎工

① 鋼管・既製コンクリート杭工（パイルハンマ工）

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・直結三点支持式	台	1	ヤットコ使用の場合計上する。 必要に応じて計上する。
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	〃		
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・リフティング型 50～55t 吊	〃		

(注) [略]

3-1 [略]

4. ・ 5. [略]

6. 諸雑費

諸雑費は、電力に関する経費、ヤットコ及び溶接機の損料、足場材の賃料、溶接ワイヤー等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、諸雑費率はヤットコの有無及び溶接機の有無に係わらず使用できるものである。

表 6. 1 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	28
---------	----

7. 単価表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工 10 本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	T _d ×1	表 4. 1
と び 工		〃	T _d ×2	〃
溶 接 工		〃	T _d ×1 (2)	〃、() 内は、鋼管杭径 800mm 以上の場合
杭		本	10	
クローラ式杭打機運転	油圧ハンマ 直結三点支持式	日	T _d	図 3. 1、図 3. 2
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³)	〃	T _d	ヤットコ使用時計上
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ リフティング型 50～55 t 吊	〃	T _d	必要に応じて計上
諸 雑 費		式	1	表 6. 1
計				

4. 基礎工

① 鋼管・既製コンクリート杭工（パイルハンマ工）

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・直結三点支持式	台	1	ヤットコ使用の場合計上する。 必要に応じて計上する。
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） 山積 0.28 m ³ （平積 0.2 m ³ ）	〃		
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・リフティング型 50～55t 吊	〃		

(注) [略]

3-1 [略]

4. ・ 5. [略]

6. 諸雑費

諸雑費は、電力に関する経費、ヤットコ及び溶接機の損料、足場材の賃料、溶接ワイヤー等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、諸雑費率はヤットコの有無及び溶接機の有無に係わらず使用できるものである。

表 6. 1 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	26
---------	----

7. 単価表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工 10 本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	T _d ×1	表 4. 1
と び 工		〃	T _d ×2	〃
溶 接 工		〃	T _d ×1 (2)	〃、() 内は、鋼管杭径 800mm 以上の場合
杭		本	10	
クローラ式杭打機運転	油圧ハンマ 直結三点支持式	日	T _d	図 3. 1、図 3. 2
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³)	〃	T _d	ヤットコ使用時計上
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ リフティング型 50～55 t 吊	〃	T _d	必要に応じて計上
諸 雑 費		式	1	表 6. 1
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量→1.00 機械損料数量→1.75 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			ラム質量	燃料消費量 (ℓ /日)
			2 t	85
			4~4.5 t	123
			6.5~8 t	123
			10~12.5 t	160
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³)	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →4.3 機械賃料数量→1.6	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ヲスジブ型 50~55 t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →32 機械損料数量→1.12	

② 既製杭の杭頭処理工

1. [略]

2. 施工歩掛

2-1 鋼管杭杭頭処理

鋼管杭と鉄筋及び鋼管杭とずれ止め及びストッパー等の現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 鋼管杭杭頭処理溶接工歩掛 (溶接長 10m 当り)

鋼管杭板厚(mm)	単位	8~10	12	14, 16
溶 接 工	人	0.35	0.68	1.11
電 気 溶 接 機	日	0.39	0.65	1.12
諸 雑 費 率	%	14		

- (注) 1. [略]
2. 電気溶接機は、排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付 300A を標準とする。
3. ・4. [略]

2-2・2-3 [略]

3. 単価表

(1) 鋼管杭杭頭処理溶接長 10m 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
溶 接 工		人		表2. 1
電 気 溶 接 機 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
電 気 溶 接 機	排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	機-12	燃料消費量→26

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量→1.00 機械損料数量→1.75 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			ラム質量	燃料消費量 (ℓ /日)
			2 t	85
			4~4.5 t	123
			6.5~8 t	123
			10~12.5 t	160
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³)	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →4.3 機械賃料数量→1.6	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ヲスジブ型 50~55 t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →32 機械損料数量→1.12	

② 既製杭の杭頭処理工

1. [略]

2. 施工歩掛

2-1 鋼管杭杭頭処理

鋼管杭と鉄筋及び鋼管杭とずれ止め及びストッパー等の現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 鋼管杭杭頭処理溶接工歩掛 (溶接長 10m 当り)

鋼管杭板厚(mm)	単位	8~10	12	14, 16
溶 接 工	人	0.35	0.68	1.11
電 気 溶 接 機	日	0.39	0.65	1.12
諸 雑 費 率	%	14		

- (注) 1. [略]
2. 電気溶接機は、ディーゼルエンジン付 300A を標準とする。
3. ・4. [略]

2-2・2-3 [略]

3. 単価表

(1) 鋼管杭杭頭処理溶接長 10m 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
溶 接 工		人		表2. 1
電 気 溶 接 機 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
電 気 溶 接 機	排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	機-12	燃料消費量→26

③・④ [略]

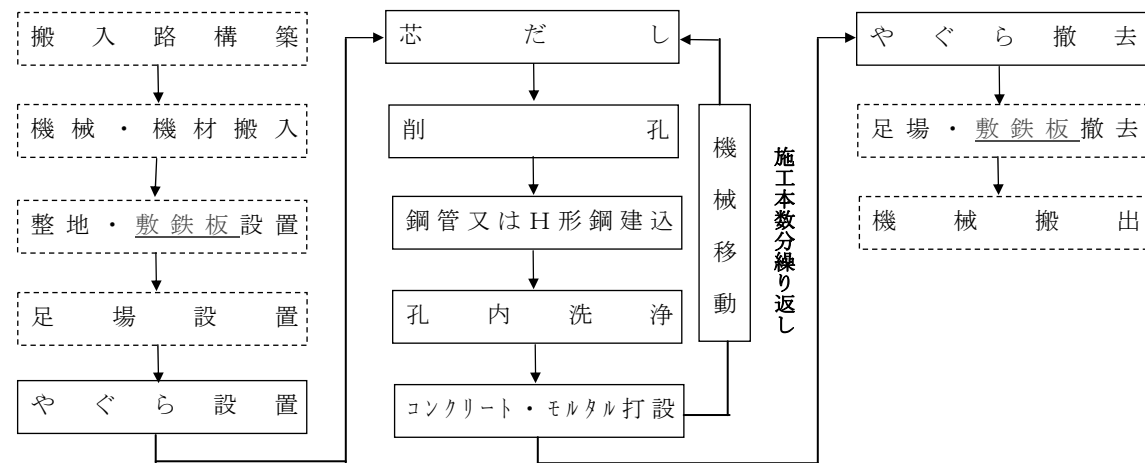
⑤ 場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）

1. [略]

2. 施工概要

本工法は、大口径ボーリングマシンを使用して施工するもので、地盤を掘削し、鋼管杭又はH形鋼を建込み、中詰コンクリートの打設、外詰モルタルの注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は土質・岩質に対する適用範囲が、使用するビットによって粘性土、礫質土、岩等に対応でき、孔の保護を行いながら施工することを標準とする。



(注) 1.・2. [略]

3. ~ 14. [略]

⑥ 場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）

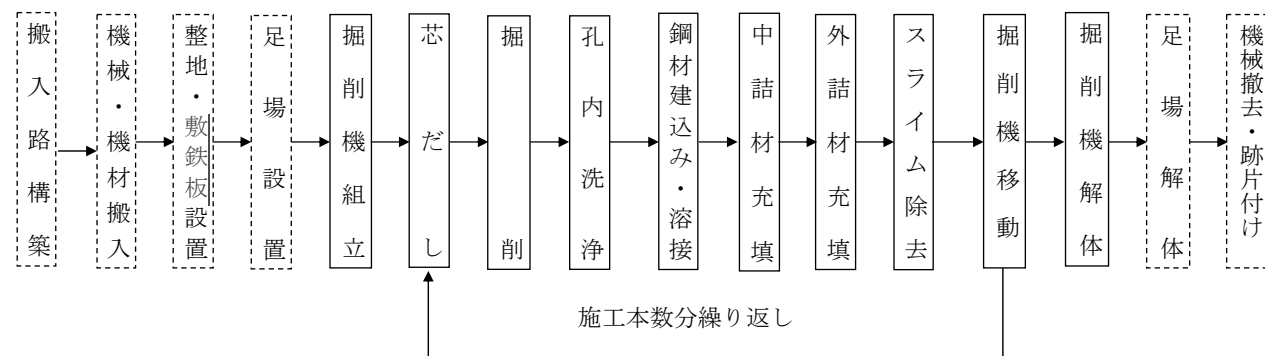
1. [略]

2. 施工概要

本工法は、クレーンまたは大口径ボーリングマシンに取り付けたダウンザホールハンマの打により地盤を掘削し、鋼管杭またはH形鋼杭を建込み、中詰材・外詰材の注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は、安定した地盤に適用し、孔の保護を行わずに施工することを標準とする。孔の保護を行う場合には、本工法の適用外とし別途考慮する。

(1) クレーンを用いた場合



③・④ [略]

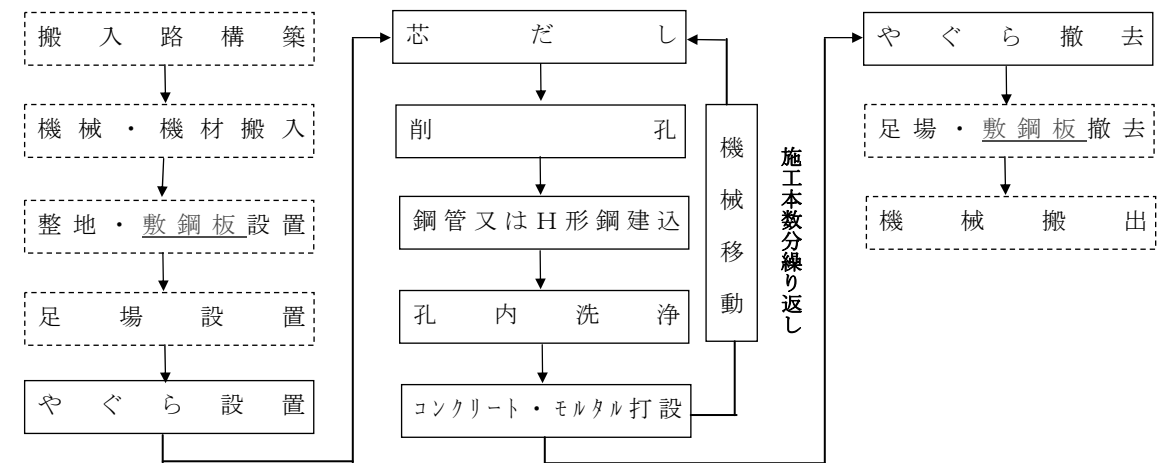
⑤ 場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）

1. [略]

2. 施工概要

本工法は、大口径ボーリングマシンを使用して施工するもので、地盤を掘削し、鋼管杭又はH形鋼を建込み、中詰コンクリートの打設、外詰モルタルの注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は土質・岩質に対する適用範囲が、使用するビットによって粘性土、礫質土、岩等に対応でき、孔の保護を行いながら施工することを標準とする。



(注) 1.・2. [略]

3. ~ 14. [略]

⑥ 場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）

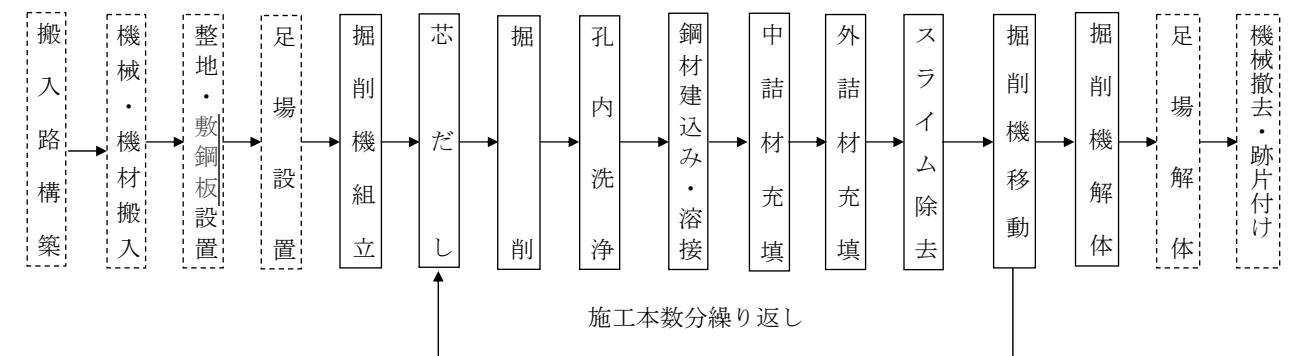
1. [略]

2. 施工概要

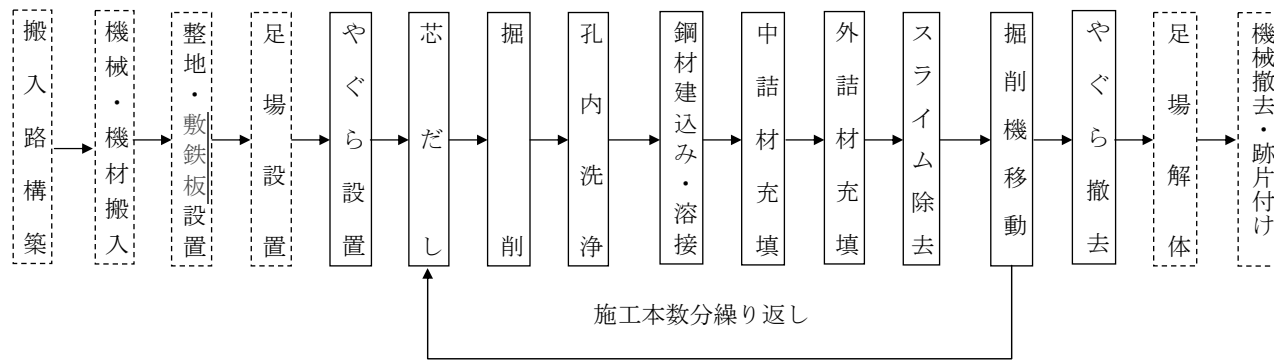
本工法は、クレーンまたは大口径ボーリングマシンに取り付けたダウンザホールハンマの打により地盤を掘削し、鋼管杭またはH形鋼杭を建込み、中詰材・外詰材の注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は、安定した地盤に適用し、孔の保護を行わずに施工することを標準とする。孔の保護を行う場合には、本工法の適用外とし別途考慮する。

(1) クレーンを用いた場合



(2) 大口径ボーリングマシンを用いた場合



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3.・4. [略]

5. 編成人員

ダウンザホールハンマによる場所打杭工の編成人員は、次表を標準とする。

表 5.1 編成人員 (人)

工法の別	職種	世話役	とび工	特殊作業員	普通作業員	溶接工
クレーンを用いた場合		1	1	1	1	1
大口径ボーリングマシンを用いた場合		1	1	1	2	1

(注) [略]

6. ~ 8. [略]

9. 諸雑費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材（大口径ボーリングマシンを用いた場合）、溶接機及び溶接材、注入管、高圧ホース、やぐら（大口径ボーリングマシンを用いた場合）、グラウトポンプ（モルタル圧送用）、コンクリートバケツ、レシーバタンク損料、リーダ・減速機（クレーンを用いた場合）、電力に関する経費、ビット等の損耗費用であり、労務費、材料費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた額を計上する。

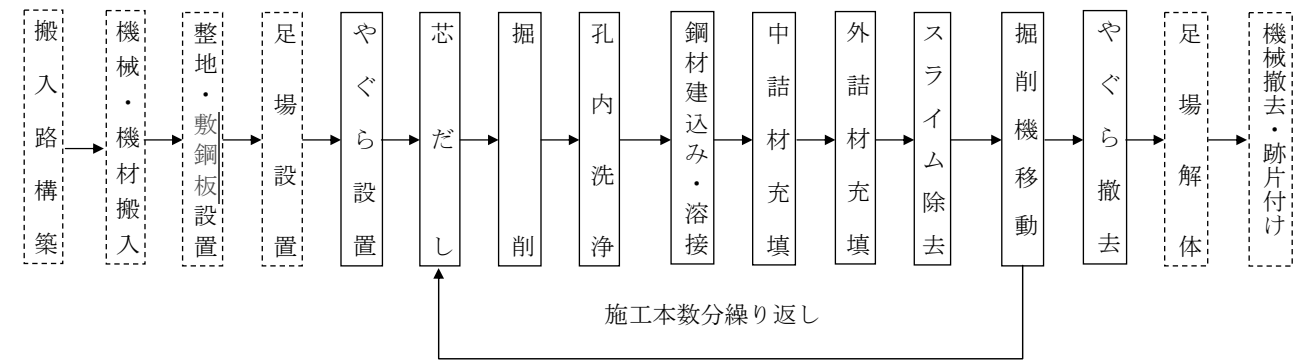
表 9.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	19
------	----

(注) 1. 傾斜地等で仮設足場が必要な場合は、別途計上することとし、敷鉄板が必要な場合は、15. 仮設工⑫敷鉄板設置撤去を別途計上する。
2. [略]

10.・11 [略]

(2) 大口径ボーリングマシンを用いた場合



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3.・4. [略]

5. 編成人員

ダウンザホールハンマによる場所打杭工の編成人員は、次表を標準とする。

表 5.1 編成人員 (人)

工法の別	職種	世話役	[新設]	特殊作業員	普通作業員	溶接工
クレーンを用いた場合		1	[新設]	2	1	1
大口径ボーリングマシンを用いた場合		1	[新設]	2	2	1

(注) [略]

6. ~ 8. [略]

9. 諸雑費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材（大口径ボーリングマシンを用いた場合）、溶接機及び溶接材、注入管、高圧ホース、やぐら（大口径ボーリングマシンを用いた場合）、グラウトポンプ（モルタル圧送用）、コンクリートバケツ、レシーバタンク損料、リーダ・減速機（クレーンを用いた場合）、電力に関する経費、ビット等の損耗費用であり、労務費、材料費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた額を計上する。

表 9.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	18
------	----

(注) 1. 傾斜地等で仮設足場が必要な場合は、別途計上することとし、敷鋼板が必要な場合は、15. 仮設工⑫敷鋼板設置撤去を別途計上する。
2. [略]

10.・11 [略]

1 2. 単価表

(1) 杭1本単価表(クレーンを用いた場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Td×1	表5.1
とび工		〃	Td×1	〃
特殊作業員		〃	Td×1	〃
普通作業員		〃	Td×1	〃
溶接工		〃	Td×1	〃(継杭の場合に計上)
中詰材料		m ³		7.杭1本単価モルタル及びコンクリート使用量の算定式により算出し計上。
鋼管・H形鋼等		本	1	
掘削用クレーン運転		日	Td	図4.1
ダウンザホールハンマ		〃	Td	表4.4
空気圧縮機運転	排出ガス対策型(第1次基準値)可搬式スクェアエンジン掛	〃	Td	表4.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	Td	鋼管杭・H形鋼杭建込み用掘削機組立・解体用
諸雑費		式	1	表9.1
計				

(注) [略]

(2) 杭1本単価表(大口径ボーリングマシンを用いた場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Td×1	表5.1
とび工		〃	Td×1	〃
特殊作業員		〃	Td×1	〃
普通作業員		〃	Td×2	〃
溶接工		〃	Td×1	〃(継杭の場合に計上)
中詰材料		m ³		7.杭1本単価モルタル及びコンクリート使用量の算定式により算出し計上。
鋼管・H形鋼等		本	1	
大口径ボーリングマシン運転		日	Td	図4.2
ダウンザホールハンマ		〃	Td	表4.4
空気圧縮機運転	排出ガス対策型(第1次基準値)可搬式スクェアエンジン掛	〃	Td	表4.5
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	Td	必要に応じて計上
諸雑費		式	1	表9.1
計				

(注) [略]

(3) ~ (5) [略]

⑦ [略]

1 2. 単価表

(1) 杭1本単価表(クレーンを用いた場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Td×1	表5.1
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
特殊作業員		〃	Td×2	〃
普通作業員		〃	Td×1	〃
溶接工		〃	Td×1	〃(継杭の場合に計上)
中詰材料		m ³		7.杭1本単価モルタル及びコンクリート使用量の算定式により算出し計上。
鋼管・H形鋼等		本	1	
掘削用クレーン運転		日	Td	図4.1
ダウンザホールハンマ		〃	Td	表4.4
空気圧縮機運転	排出ガス対策型(第1次基準値)可搬式スクェアエンジン掛	〃	Td	表4.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	Td	鋼管杭・H形鋼杭建込み用掘削機組立・解体用
諸雑費		式	1	表9.1
計				

(注) [略]

(2) 杭1本単価表(大口径ボーリングマシンを用いた場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Td×1	表5.1
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
特殊作業員		〃	Td×2	〃
普通作業員		〃	Td×2	〃
溶接工		〃	Td×1	〃(継杭の場合に計上)
中詰材料		m ³		7.杭1本単価モルタル及びコンクリート使用量の算定式により算出し計上。
鋼管・H形鋼等		本	1	
大口径ボーリングマシン運転		日	Td	図4.2
ダウンザホールハンマ		〃	Td	表4.4
空気圧縮機運転	排出ガス対策型(第1次基準値)可搬式スクェアエンジン掛	〃	Td	表4.5
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	Td	必要に応じて計上
諸雑費		式	1	表9.1
計				

(注) [略]

(3) ~ (5) [略]

⑦ [略]

⑧ 場所打杭工（リバースサーキュレーション工）

1. ～6. [略]

7. 掘削土及び泥水処理

7-1 掘削土の運搬が必要な場合は、ダンプトラック（10t積級）を別途計上する。

7-2・7-3 [略]

8. [略]

9. 単価表

(1) 基礎杭工1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\gamma \times d_1 \times n$	4-3、表3.1、表4.1、表4.2
特殊作業員		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
とび工		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
普通作業員		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
油圧式鋼管圧入引抜機損料	(各種)	供用日	$1.51 \times \gamma \times d_1$	表4.1、表4.2
リバースサーキュレーションドリル損料	エアリフト式・ポンプサクション式 最大掘削径 3,200mm 最大掘削長 200m	〃	$1.51 \times \gamma \times \delta \times d_1$	表4.1、表4.2、表4.3
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラジック型 40t吊	日	$\gamma \times \varepsilon_1 \times d_1$	表4.1、表4.2、表4.4
〃	〃	〃	$\gamma \times \varepsilon_2 \times d_1$	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クロー型 山積0.50m ³ (平積0.40m ³)	〃	$1.09 \times \gamma \times \delta \times d_1$	表4.1、表4.2、表4.3
コンクリート		m ³		
鉄筋工		t		別途計上
ダンプトラック運	10t積級	時間		〃
諸雑費		式	1	表8.1
計				

(2) [略]

⑨～⑪ [略]

⑧ 場所打杭工（リバースサーキュレーション工）

1. ～6. [略]

7. 掘削土及び泥水処理

7-1 掘削土の運搬が必要な場合は、ダンプトラック（10t積）を別途計上する。

7-2・7-3 [略]

8. [略]

9. 単価表

(1) 基礎杭工1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\gamma \times d_1 \times n$	4-3、表3.1、表4.1、表4.2
特殊作業員		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
とび工		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
普通作業員		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
油圧式鋼管圧入引抜機損料	(各種)	供用日	$1.51 \times \gamma \times d_1$	表4.1、表4.2
リバースサーキュレーションドリル損料	エアリフト式・ポンプサクション式 最大掘削径 3,200mm 最大掘削長 200m	〃	$1.51 \times \gamma \times \delta \times d_1$	表4.1、表4.2、表4.3
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラジック型 40t吊	日	$\gamma \times \varepsilon_1 \times d_1$	表4.1、表4.2、表4.4
〃	〃	〃	$\gamma \times \varepsilon_2 \times d_1$	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クロー型 山積0.50m ³ (平積0.40m ³)	〃	$1.09 \times \gamma \times \delta \times d_1$	表4.1、表4.2、表4.3
コンクリート		m ³		
鉄筋工		t		別途計上
ダンプトラック運	10t積	時間		〃
諸雑費		式	1	表8.1
計				

(2) [略]

⑨～⑪ [略]

⑫ 薬液注入工

1.・2. [略]

3. 機械の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 二重管ストレーナ工法の機種選定の選定

機種	規格	単位	数量			
			単相方式		複相方式	
			2セット	4セット	2セット	4セット
ボーリングマシン	油圧式 5.5kW 級	台	2	4	2	4
薬液注入ポンプ	5~20 ℓ/min×2 (9.8 Mpa)	〃	2	4	2	4
水ガラス積算流量計	0~50 ℓ/min	〃	(1)注2	(1)注2	(1)注2	(1)注2

(注) [略]

表 3. 2 二重管ダブルパッカー工法の機種選定の選定

機種	規格	単位	数量				
			削孔	一次注入		二次注入	
				セメント ベントナ イト注入	溶液型 有機系 注入	溶液型 無機系 注入	
1セット	2セット	4セット	4セット	4セット			
ボーリングマシン	ロータリーパッカ式 クロー型 81kW 級	台	1	2	-	-	-
薬液注入ポンプ	0~20 ℓ/min×2 (9.8 MPa)	〃	-	-	2	2	2
ゲルミキサ	300 ℓ×1 槽	〃	-	-	-	1	-
ミキシングプラ ント	3,000 ℓ/h	〃	-	-	-	-	1
水ガラス積算流 量計	0~50 ℓ/min	〃	-	-	-	(1)注2	(1)注2

(注) [略]

図 3-1-1 [略]

図 3-1-2 [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

(1) 二重管ストレーナ工法 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表 4. 1
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Qs	式 5. 1
ボーリングマシン損料	油圧式 5.5kW	日	1/N×b	表 3. 1
薬液注入ポンプ損料	5~20 ℓ/min×2 (9.8 Mpa)	〃	1/N×b	〃
水ガラス積算流量計損料	0~50 ℓ/min	〃	1/N×b	表 3. 1 (注) 5
削孔消耗材料費		式	1	
注入消耗材料費		〃	1	
諸雑費		〃	1	表 5. 4
特許料金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) [略]

⑫ 薬液注入工

1.・2. [略]

3. 機械の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 二重管ストレーナ工法の機種選定の選定

機種	規格	単位	数量			
			単相方式		複相方式	
			2セット	4セット	2セット	4セット
ボーリングマシン	油圧式 5.5kW 級	台	2	4	2	4
薬液注入ポンプ	5~20 ℓ/min×2	〃	2	4	2	4
水ガラス積算流量計	0~50 ℓ/min	〃	(1)注2	(1)注2	(1)注2	(1)注2

(注) [略]

表 3. 2 二重管ダブルパッカー工法の機種選定の選定

機種	規格	単位	数量				
			削孔	一次注入		二次注入	
				セメント ベントナ イト注入	溶液型 有機系 注入	溶液型 無機系 注入	
1セット	2セット	4セット	4セット	4セット			
ボーリングマシン	ロータリーパッカ式 クロー型 81kW 級	台	1	2	-	-	-
薬液注入ポンプ	0~20 ℓ/min×2 0~9.8 MPa (0~100 kg f/cm ²)	〃	-	-	2	2	2
ゲルミキサ	300 ℓ×1 槽	〃	-	-	-	1	-
ミキシングプラ ント	3,000 ℓ/h	〃	-	-	-	-	1
水ガラス積算流 量計	0~50 ℓ/min	〃	-	-	-	(1)注2	(1)注2

(注) [略]

図 3-1-1 [略]

図 3-1-2 [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

(1) 二重管ストレーナ工法 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表 4. 1
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Qs	式 5. 1
ボーリングマシン損料	油圧式 5.5kW	日	1/N×b	表 3. 1
薬液注入ポンプ損料	5~20 ℓ/min×2	〃	1/N×b	〃
水ガラス積算流量計損料	0~50 ℓ/min	〃	1/N×b	表 3. 1 (注) 5
削孔消耗材料費		式	1	
注入消耗材料費		〃	1	
諸雑費		〃	1	表 5. 4
特許料金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) 二重管ダブルパッカー工法一次注入1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q _{P1}	式5.3
薬液注入ポンプ損料	0~20 ℓ/min×2 (9.8 MPa)	日	1/N×b	表3.2
注入消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表5.12
特許料金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) [略]

(4) 二重管ダブルパッカー工法二次注入1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q _{P2}	式5.4
薬液注入ポンプ損料	0~20 ℓ/min×2 (9.8 MPa)	日	1/N×b	表3.2
ゲルミキサ損料	300 ℓ×1槽	〃	1/N×b	(注)5
ミキシングプラント損料	3,000 ℓ/h	〃	1/N×b	(注)6
水ガラス積算流量計損料	0~50 ℓ/min	〃	1/N×b	(注)7
注入消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表5.12
特許料金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) [略]

(5) ~ (8) [略]

(2) [略]

(3) 二重管ダブルパッカー工法一次注入1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q _{P1}	式5.3
薬液注入ポンプ損料	0~20 ℓ/min×2 0~9.8MPa (0~100 kg f/cm ²)	日	1/N×b	表3.2
注入消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表5.12
特許料金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) [略]

(4) 二重管ダブルパッカー工法二次注入1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q _{P2}	式5.4
薬液注入ポンプ損料	0~20 ℓ/min×2 0~9.8MPa (0~100 kg f/cm ²)	日	1/N×b	表3.2
ゲルミキサ損料	300 ℓ×1槽	〃	1/N×b	(注)5
ミキシングプラント損料	3,000 ℓ/h	〃	1/N×b	(注)6
水ガラス積算流量計損料	0~50 ℓ/min	〃	1/N×b	(注)7
注入消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表5.12
特許料金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) [略]

(5) ~ (8) [略]

5. フリユーム類据付工

① 鉄筋コンクリートフリユーム機械据付

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	機—28	運転労務数量→1.0 燃料消費量 →70 機械賃料数量→1.43

② [略]

③ 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

1. ～5. [略]

6. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	機—28	運転労務数量→1.0 燃料消費量 →67 機械賃料数量→1.33

④～⑥ [略]

⑦ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

1.・2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

1個当り質量(kg/個)	バックホウ(クレーン機能付)	ラフテレーンクレーン
80 超え 1,500 以下	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.80m ³ (平積0.60m ³) 2.9t吊	—
1,500 超え 4,000 以下	—	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊

(注) 1. [略]

2. バックホウ(クレーン機能付)及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。

3. バックホウ(クレーン機能付)は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

5. フリユーム類据付工

① 鉄筋コンクリートフリユーム機械据付

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	機—28	運転労務数量→1.0 燃料消費量 →67 機械賃料数量→1.43

② [略]

③ 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

1. ～5. [略]

6. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	機—28	運転労務数量→1.0 燃料消費量 →64 機械賃料数量→1.33

④～⑥ [略]

⑦ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

1.・2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

1個当り質量(kg/個)	トラッククレーン	ラフテレーンクレーン
80 超え 1,500 以下	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	—
1,500 超え 4,000 以下	—	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t吊

(注) 1. [略]

2. トラッククレーン及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。

[新設]

4. [略]

5. 敷モルタル材料費

据付調整材として、モルタルを使用する場合は、労務費と水路用鉄筋コンクリートL形ブロック材料費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表5. 1 敷モルタル材料比率

製品1個当り質量(kg)	敷きモルタル幅(m)											
	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4
80 超え 450 以下	2.0	3.0	4.0	4.0	5.0	6.0	6.0	7.0				
450 超え 800 以下	1.0	2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	4.0	4.0				
800 超え 1,100 以下		1.0		2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	3.0	4.0		
1,100 超え 1,500 以下			1.0				2.0	2.0	3.0	3.0		
1,500 超え 1,900 以下				1.0				2.0	2.0	2.0		
1,900 超え 2,200 以下					1.0	1.0				2.0	2.0	
2,200 超え 2,600 以下												
2,600 超え 3,000 以下							1.0					
3,000 超え 3,400 以下								1.0	1.0			
3,400 超え 3,800 以下										1.0		
3,800 超え 4,000 以下											1.0	

製品1個当り質量(kg)	敷きモルタル幅(m)										
	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5
80 超え 450 以下											
450 超え 800 以下											
800 超え 1,100 以下											
1,100 超え 1,500 以下											
1,500 超え 1,900 以下			3.0								
1,900 超え 2,200 以下	2.0		2.0								
2,200 超え 2,600 以下											
2,600 超え 3,000 以下			2.0	2.0	2.0	2.0					
3,000 超え 3,400 以下											
3,400 超え 3,800 以下	1.0	1.0	1.0	1.0			2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
3,800 超え 4,000 以下					1.0						

(注) 1. ～4. [略]

6. [略]

7. 単価表

(1) 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表4. 1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
L形ブロック	材料呼称	個	10	
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.80m ³ (平積0.60m ³) 2.9t吊	日	10/D	表3. 1、表4. 1
ラフレソクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	10/D	〃
接合材料費		式	1	表4. 1

4. [略]

5. 敷モルタル材料費

据付調整材として、モルタルを使用する場合は、労務費と水路用鉄筋コンクリートL形ブロック材料費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表5. 1 敷モルタル材料比率

製品1個当り質量(kg)	敷きモルタル幅(m)											
	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4
80 超え 450 以下	2.0	3.0	3.0	4.0	5.0	5.0	6.0	7.0				
450 超え 800 以下	1.0		2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	3.0				
800 超え 1,100 以下		1.0			2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	
1,100 超え 1,500 以下			1.0	1.0						2.0	2.0	
1,500 超え 1,900 以下					1.0	1.0						2.0
1,900 超え 2,200 以下							1.0	1.0	1.0			
2,200 超え 2,600 以下												
2,600 超え 3,000 以下								1.0	1.0			
3,000 超え 3,400 以下										1.0	1.0	
3,400 超え 3,800 以下												1.0
3,800 超え 4,000 以下												

製品1個当り質量(kg)	敷きモルタル幅(m)										
	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5
80 超え 450 以下											
450 超え 800 以下											
800 超え 1,100 以下											
1,100 超え 1,500 以下											
1,500 超え 1,900 以下	2.0										
1,900 超え 2,200 以下		2.0									
2,200 超え 2,600 以下											
2,600 超え 3,000 以下											
3,000 超え 3,400 以下											
3,400 超え 3,800 以下	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
3,800 超え 4,000 以下											

(注) 1. ～4. [略]

6. [略]

7. 単価表

(1) 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表4. 1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
L形ブロック	材料呼称	個	10	
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日	10/D	表3. 1
ラフレソクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型20t吊	〃	10/D	〃
接合材料費		式	1	表4. 1

敷モルタル材料費		式	1	表 5. 1
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m ³ (平積 0.60m ³) 2.9 t 吊	機-28	運転労務数量→1.0 燃料消費量 →121 機械賃料数量→1.35

⑧・⑨ [略]

敷モルタル材料費		式	1	表 5. 1
計				

(注) [略]

(2) [略]

[新設]

⑧・⑨ [略]

6. 河川・水路工

① [略]

② サイド・アンダードレーン工

1. [略]

2. アンダードレーン

2-1 適用範囲

本歩掛は、硬質ポリ塩化ビニル有孔管を用いた幅 350 mm・高さ 400 mmのアンダードレーンに適用する。

2-2～2-4 [略]

2-5 使用材料

2-5-1 [略]

2-5-2 硬質ポリ塩化ビニル有孔管及びビニールフィルムの使用量は、次表を標準とする。

表 2. 4 使用材料 (10.0m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
<u>硬質ポリ塩化ビニル有孔管</u>	VU管 径100 長4.0m	本	2.5
ビニールフィルム	厚 0.1 mm 幅 150 cm	m	5.0

3. 単価表

(1) [略]

(2) アンダードレーン 10.0m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
フ ィ ル タ ー 材		m ³	1.4×(1+0.05)	表 2. 3
<u>硬質ポリ塩化ビニル有孔管</u>		本		表 2. 4
ビ ニ ー ル フ ィ ル ム		m		〃
世 話 役		人		表 2. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.055 m ³ (平積 0.04 m ³)	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) [略]

③～⑤ [略]

6. 河川・水路工

① [略]

② サイド・アンダードレーン工

1. [略]

2. アンダードレーン

2-1 適用範囲

本歩掛は、塩化ビニル有孔管を用いた幅 350 mm・高さ 400 mmのアンダードレーンに適用する。

2-2～2-4 [略]

2-5 使用材料

2-5-1 [略]

2-5-2 塩化ビニル有孔管及びビニールフィルムの使用量は、次表を標準とする。

表 2. 4 使用材料 (10.0m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
<u>塩化ビニル有孔管</u>	VU管 径100 長4.0m	本	2.5
ビニールフィルム	厚 0.1 mm 幅 150 cm	m	5.0

3. 単価表

(1) [略]

(2) アンダードレーン 10.0m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
フ ィ ル タ ー 材		m ³	1.4×(1+0.05)	表 2. 3
<u>塩化ビニル有孔管</u>		本		表 2. 4
ビ ニ ー ル フ ィ ル ム		m		〃
世 話 役		人		表 2. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.055 m ³ (平積 0.04 m ³)	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) [略]

③～⑤ [略]

⑥ 消波工

1. ～ 4. [略]

5. 間接費

5-1～5-3 [略]

5-4 [略]

5-4-1 回航

回航費は、次式による。

回航費＝艀装費＋運転費＋検査料

(1) 艀装費

回航される船舶、機械器具等を目的地まで安全に航行するために必要な船体の補強、固縛、防水工事等あるいは回航のための解体・組立に要する費用で、下記により積算する。

艀装費＝被回航船舶等の購入価格×艀装費率

ただし、これによることが不適当な場合は、条件等を考慮して別途算出することができる。

表 5. 1 艀装費率

被回航船舶等の種類	被えい回航の場合	自力回航の場合
主 作 業 船	$\frac{0.0025}{(0.0020)}$	0.00030
付 属 作 業 船	0.0015	0.00015
船 舶 付 属 品	0.0010	—

(注) () の艀装費率は、静穏な海域のみを回航する被回航船舶の艀装費率。

(2)・(3) [略]

5-4-2 [略]

6. 単価表

(1)～(5) [略]

(6) 自航潜水士船運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人		表 3. 2 又は表 4. 16
潜 水 士		〃		〃
潜 水 連 絡 員		〃		〃
燃 料 費		ℓ		捨石ならし工 →145 ブロック据付工→110
自 航 潜 水 士 船 損 料		供用日	1.88	
計				

(7)～(12) [略]

⑦～⑨ [略]

⑥ 消波工

1. ～ 4. [略]

5. 間接費

5-1～5-3 [略]

5-4 [略]

5-4-1 回航

回航費は、次式による。

回航費＝艀装費＋運転費＋検査料

(1) 艀装費

回航される船舶、機械器具等を目的地まで安全に航行するために必要な船体の補強、固縛、防水工事等あるいは回航のための解体・組立に要する費用で、下記により積算する。

艀装費＝被回航船舶等の購入価格×艀装費率

ただし、これによることが不適当な場合は、条件等を考慮して別途算出することができる。

表 5. 1 艀装費率

被回航船舶等の種類	被えい回航の場合	自力回航の場合
主 作 業 船	$\frac{0.0030}{0.0030}$	0.00030
付 属 作 業 船	0.0015	0.00015
船 舶 付 属 品	0.0010	—

[新設]

(2)・(3) [略]

5-4-2 [略]

6. 単価表

(1)～(5) [略]

(6) 自航潜水士船運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人		表 3. 2 又は表 4. 16
潜 水 士		〃		〃
潜 水 連 絡 員		〃		〃
燃 料 費		ℓ		捨石ならし工 →56 ブロック据付工→43
自 航 潜 水 士 船 損 料		供用日	1.88	
計				

(7)～(12) [略]

⑦～⑨ [略]

7. 管水路工

① 管水路基礎

1. ～3. [略]

4. 基礎材投入歩掛

バックホウによる基礎材の投入歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 投入歩掛 (10m³当り)

規格区分	運転時間 (日)
排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.20m ³)	0.19
排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	0.09
排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	0.05

(注) 1. バックホウの規格は、当該場所の掘削時の規格を選定する。
2. バックホウは賃料とする。

5. [略]

6. まき出し及び締固め歩掛

表 6. 1 まき出し及び締固め歩掛 (10m³当り)

基礎区分	締固め機械	締固め区分	世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	運転時間 (hr)	諸雑費率
砂 砂質土	タンパ 60～80kg 級	I	0.32	0.34	1.09	—	12%
		II	0.43	0.56	1.35	—	
	振動コンパクト 前進型 90kg 級	I	0.25	0.20	0.92	—	
		II	0.32	0.34	1.09	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.8～1.1 t	I	0.19	—	0.78	0.6	—
		II	0.22	—	0.84	1.0	
砕石 礫質土 粘性土	タンパ 60～80kg 級	I	0.36	0.34	1.26	—	12%
		II	0.47	0.56	1.52	—	
	振動コンパクト 前進型 90kg 級	I	0.29	0.20	1.09	—	
		II	0.36	0.34	1.26	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.8～1.1 t	I	0.23	—	0.95	0.6	—
		II	0.26	—	1.01	1.0	

(注) [略]

7. 管水路工

① 管水路基礎

1. ～3. [略]

4. 基礎材投入歩掛

バックホウによる基礎材の投入歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 投入歩掛 (10m³当り)

規格区分	運転時間 (hr)
排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.20m ³)	1.02
排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	0.51
排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	0.27

(注) バックホウの規格は、当該場所の掘削時の規格を選定する。
[新設]

5. [略]

6. まき出し及び締固め歩掛

表 6. 1 まき出し及び締固め歩掛 (10m³当り)

基礎区分	締固め機械	締固め区分	世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	運転時間 (hr)	諸雑費率
砂 砂質土	タンパ 60～80kg 級	I	0.32	0.34	1.09	—	7%
		II	0.43	0.56	1.35	—	
	振動コンパクト 前進型 90kg 級	I	0.25	0.20	0.92	—	
		II	0.32	0.34	1.09	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.8～1.1 t	I	0.19	—	0.78	0.6	—
		II	0.22	—	0.84	1.0	
砕石 礫質土 粘性土	タンパ 60～80kg 級	I	0.36	0.34	1.26	—	7%
		II	0.47	0.56	1.52	—	
	振動コンパクト 前進型 90kg 級	I	0.29	0.20	1.09	—	
		II	0.36	0.34	1.26	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.8～1.1 t	I	0.23	—	0.95	0.6	—
		II	0.26	—	1.01	1.0	

(注) [略]

7. 単価表

(1) 管水路基礎 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
基礎材		m ³		式 3. 1
世話役		人		表 6. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	時間		振動ローラの場合 表 6. 1
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積〇〇m ³ (平積〇〇m ³)	且		表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	機-9	
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.28 m ³ (平積 0.20 m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →39 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →100 機械賃料数量 →1.58

②・③ [略]

7. 単価表

(1) 管水路基礎 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
基礎材		m ³		式 3. 1
世話役		人		表 6. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	時間		振動ローラの場合 表 6. 1
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積〇〇m ³ (平積〇〇m ³)	〃		表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	ハンドガイド式 0.8~1.1 t	機-9	
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.28 m ³ (平積 0.20 m ³)	機-1	[新設]
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³)	機-1	[新設]
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³)	機-1	[新設]

②・③ [略]

④ 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設

1. 適用範囲

本歩掛は、硬質ポリ塩化ビニル管の人力布設に適用する。
なお、ソケット、エルボ、チーズ等の継手材料費は別途計上する。

2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 布設歩掛
布設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設歩掛 (10m当り)
[略]

3-2 [略]

4. 単価表

(1) 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設 10m当り単価表
[略]

⑤ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1. 適用範囲

本歩掛は、硬質ポリ塩化ビニル管の機械布設に適用する。
なお、ソケット、エルボ、チーズ等の継手材料費は別途計上する。

2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 布設歩掛
布設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設歩掛 (10m当り)
[略]

3-2 [略]

4. 単価表

(1) 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設 10m当り単価表
[略]

(2) [略]

④ 硬質塩化ビニル管人力布設

1. 適用範囲

本歩掛は、硬質塩化ビニル管の人力布設に適用する。
なお、ソケット、エルボ、チーズ等の継手材料費は別途計上する。

2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 布設歩掛
布設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 硬質塩化ビニル管人力布設歩掛 (10m当り)
[略]

3-2 [略]

4. 単価表

(1) 硬質塩化ビニル管人力布設 10m当り単価表
[略]

⑤ 硬質塩化ビニル管機械布設

1. 適用範囲

本歩掛は、硬質塩化ビニル管の機械布設に適用する。
なお、ソケット、エルボ、チーズ等の継手材料費は別途計上する。

2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 布設歩掛
布設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 硬質塩化ビニル管機械布設歩掛 (10m当り)
[略]

3-2 [略]

4. 単価表

(1) 硬質塩化ビニル管機械布設 10m当り単価表
[略]

(2) [略]

⑥ 強化プラスチック複合管機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管（直管）と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表 3. 1 強化プラスチック複合管（4.0m 管）布設歩掛（10 本当たり）

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
200	—	0.53	0.83	0.76	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9 吊
250	—	0.56	0.88	0.80	
300	—	0.67	0.92	0.83	
350	—	0.70	1.04	0.87	
400	—	0.72	1.08	0.90	
450	0.19	0.56	1.11	0.93	
500	0.19	0.57	1.14	0.95	
600	0.20	0.61	1.31	1.01	
700	0.21	0.74	1.47	1.05	
800	0.22	0.77	1.54	1.10	
900	0.23	0.80	1.72	1.15	
1,000	0.36	0.95	1.90	1.19	
1,100	0.37	0.99	1.98	1.23	
1,200	0.38	1.15	2.18	1.28	
1,350	0.40	1.20	2.40	1.33	
1,500	0.42	1.39	2.78	1.39	
1,650	0.43	1.45	3.04	1.45	
1,800	0.61	1.67	3.33	1.52	
2,000	0.63	1.90	3.97	1.59	
2,200	0.67	2.17	4.50	1.67	
2,400	0.86	2.59	5.17	1.72	
2,600	0.91	2.91	5.82	1.82	
2,800	1.13	3.40	6.60	1.89	
3,000	1.18	3.73	7.65	1.96	

- (注) 1. [略]
 2. バックホウ（クレーン機能付）及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
 3. [略]
 4. 諸雑費として、管材料費の0.1%を計上するものとする。
 なお、諸雑費とは接合用滑材の費用及びレバブロックの損料をいう。

表 3. 2 強化プラスチック複合管（6m 管）布設歩掛（10 本当たり）

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
450	0.19	0.58	1.25	0.96	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型（第2次基準値）
500	0.20	0.69	1.39	0.99	
600	0.32	0.84	1.58	1.05	

⑥ 強化プラスチック複合管機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管（直管）と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表 3. 1 強化プラスチック複合管（4.0m 管）布設歩掛（10 本当たり）

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械	
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員			
200	—	0.53	0.83	0.76	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9 吊	
250	—	0.56	0.88	0.80		
300	—	0.67	0.92	0.83		
350	—	0.70	1.04	0.87		
400	—	0.72	1.08	0.90		
450	0.19	0.56	1.11	0.93		
500	0.19	0.57	1.14	0.95		
600	0.20	0.61	1.31	1.01		
700	0.21	0.74	1.47	1.05		
800	0.22	0.77	1.54	1.10		
900	0.23	0.80	1.72	1.15		
1,000	0.36	0.95	1.90	1.19		
1,100	0.37	0.99	1.98	1.23		
1,200	0.38	1.15	2.18	1.28		トラッククレーン (油圧伸縮ジブ型) 4.9 t 吊
1,350	0.40	1.20	2.40	1.33		
1,500	0.42	1.39	2.78	1.39		
1,650	0.43	1.45	3.04	1.45		ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第1次基準値） （油圧伸縮ジブ型）25 t 吊
1,800	0.61	1.67	3.33	1.52		
2,000	0.63	1.90	3.97	1.59		
2,200	0.67	2.17	4.50	1.67		
2,400	0.86	2.59	5.17	1.72		
2,600	0.91	2.91	5.82	1.82		
2,800	1.13	3.40	6.60	1.89		
3,000	1.18	3.73	7.65	1.96		

- (注) 1. [略]
 2. トラッククレーン、ラフテレーンクレーンは賃料とする。
 3. [略]
 4. 雑材料費として、管材料費の0.1%を計上するものとする。
 なお、雑材料費とは接合用滑材の費用をいう。

表 3. 2 強化プラスチック複合管（6m 管）布設歩掛（10 本当たり）

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
450	0.19	0.58	1.25	0.96	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型（第1次基準値）
500	0.20	0.69	1.39	0.99	
600	0.32	0.84	1.58	1.05	

700	0.33	0.88	1.87	1.10	クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9 吊
800	0.34	1.03	2.18	1.15	
900	0.36	1.20	2.41	1.20	
1,000	0.50	1.38	2.75	1.25	
1,100	0.51	1.54	2.95	1.28	
1,200	0.53	1.73	3.33	1.33	
1,350	0.70	1.97	3.80	1.41	
1,500	0.74	2.21	4.41	1.47	
1,650	0.76	2.42	4.85	1.52	
1,800	0.95	2.70	5.56	1.59	
2,000	1.00	3.17	6.33	1.67	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第2次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊

- (注) 1. [略]
 2. バックホウ (クレーン機能付) 及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
 3. [略]
 4. 諸雑費として、管材料費の0.1%を計上するものとする。
 なお、諸雑費とは接合用滑材の費用及びレバーブロックの損料をいう。

4. 単価表

(1) 強化プラスチック複合管 (4.0m管) 布設 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸雑費		式	1	表3.1 (注) 4
世話役		人		表3.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
[削る。]	[削る。]	[削る。]		[削る。]
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊	〃		〃
計				

(2) 強化プラスチック複合管 (6.0m管) 布設 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸雑費		式	1	表3.2 (注) 4
世話役		人		表3.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
[削る]	[削る。]	[削る。]		[削る。]
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊	〃		〃
計				

700	0.33	0.88	1.87	1.10	クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9 吊
800	0.34	1.03	2.18	1.15	
900	0.36	1.20	2.41	1.20	
1,000	0.50	1.38	2.75	1.25	
1,100	0.51	1.54	2.95	1.28	
1,200	0.53	1.73	3.33	1.33	
1,350	0.70	1.97	3.80	1.41	
1,500	0.74	2.21	4.41	1.47	
1,650	0.76	2.42	4.85	1.52	
1,800	0.95	2.70	5.56	1.59	
2,000	1.00	3.17	6.33	1.67	トラッククレーン (油圧伸縮ジブ型) 4.9 t 吊
					ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第1次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊

- (注) 1. [略]
 2. トラッククレーン、ラフテレーンクレーンは賃料とする。
 3. [略]
 4. 雑材料費として、管材料費の0.1%を計上するものとする。
 なお、雑材料費とは接合用滑材の費用をいう。

4. 単価表

(1) 強化プラスチック複合管 (4.0m管) 布設 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
雑材料費		式	1	表3.1 (注) 4
世話役		人		表3.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9 t 吊	日		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊	〃		〃
計				

(2) 強化プラスチック複合管 (6.0m管) 布設 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
雑材料費		式	1	表3.2 (注) 4
世話役		人		表3.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9 t 吊	日		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊	〃		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 2.9 t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →1.12

⑦ ダクティル鑄鉄管機械布設

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K形				T形				
	1~2.5種	3~4.5種	5種	DC, DD種	1~2.5種	3~4.5種	5種	DC, DD種	
300未満	バックホウ(クレーン機能付) 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9 吊				バックホウ(クレーン機能付) 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9 吊				-
350									
400									
450									
500									
600									
700	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第2次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊				ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第2次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊				-
800									
900									
1000									
1100									
1200									
1350									
1500									
1600(4m)									
1600(5m)									
1650(4m)									
1650(5m)									
1800(4m)									
1800(5m)									
2000(4m)									
2000(5m)									

①ラフテレーンクレーン
排出ガス対策型(第2次基準値)
(油圧伸縮ジブ型) 50 t 吊り

(注) 1. バックホウ(クレーン機能付)及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
2. [略]

4. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管(直管)と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 2.9 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械損料数量 →1.12

⑦ ダクティル鑄鉄管機械布設

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K形				T形				
	1~2.5種	3~4.5種	5種	DC, DD種	1~2.5種	3~4.5種	5種	DC, DD種	
300未満	バックホウ(クレーン機能付) 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9 吊				バックホウ(クレーン機能付) 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9 吊				-
350									
400									
450									
500									
600									
700	トラッククレーン (油圧伸縮ジブ型) 4.9 t 吊				トラッククレーン (油圧伸縮ジブ型) 4.9 t 吊				-
800									
900									
1000									
1100									
1200									
1350									
1500									
1600(4m)									
1600(5m)									
1650(4m)									
1650(5m)									
1800(4m)									
1800(5m)									
2000(4m)									
2000(5m)									

①ラフテレーンクレーン
排出ガス対策型(第1次基準値)
(油圧伸縮ジブ型) 50 t 吊り

(注) 1. トラッククレーン、ラフテレーンクレーンは賃料とする。
2. [略]

4. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管(直管)と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表 4. 1 ダクタイル鋳鉄管布設歩掛 (1本当たり)

管径 (mm)	管長 (m)	K形				T形			
		世話役	特殊作業員	普通作業員	機械運転時間	世話役	特殊作業員	普通作業員	機械運転時間
		(人)			(日)	(人)			(日)
150	5.0	0.03	0.12	0.16	0.09	0.02	0.09	0.11	0.08
200	〃	0.04	0.14	0.19	〃	0.02	0.10	0.13	〃
250	〃	0.05	0.15	0.20	0.10	0.02	0.11	0.14	〃
300	6.0	〃	0.18	0.23	0.11	0.04	0.13	0.15	0.09
350	〃	〃	0.20	0.25	〃	〃	0.14	0.17	〃
400	〃	〃	0.21	0.26	0.12	〃	〃	0.18	0.10
450	〃	〃	0.22	0.29	0.13	〃	0.16	0.19	〃
500	〃	0.06	0.25	0.30	〃	〃	〃	0.20	0.11
600	〃	0.08	0.32	0.40	0.15	〃	0.18	0.23	〃
700	〃	0.10	0.42	0.52	0.16	〃	0.19	0.25	0.12
800	〃	0.13	0.51	0.64	0.17	0.06	0.21	0.27	0.13
900	〃	0.16	0.63	0.79	0.19	〃	0.23	0.28	0.14
1000	〃	0.19	0.74	0.93	0.21	〃	0.24	0.31	0.15
1100	〃	0.23	0.88	1.10	0.23	0.07	0.26	0.33	0.16
1200	〃	0.26	1.03	1.29	0.25	〃	0.27	0.34	0.17
1350	〃	0.33	1.28	1.61	0.28	〃	0.30	0.37	0.18
1500	〃	0.37	1.51	1.89	0.32	〃	0.31	0.40	0.20
1600	4.0	0.32	1.29	1.62	0.27	〃	〃	0.39	0.18
〃	5.0	0.38	1.50	1.88	0.31	〃	〃	0.41	0.20
1650	4.0	0.36	1.39	1.76	0.28	0.08	0.32	0.40	0.19
〃	5.0	0.39	1.61	2.03	0.32	〃	〃	0.42	0.20
1800	4.0	0.41	1.63	2.03	0.31	〃	0.33	〃	〃
〃	5.0	0.47	1.88	2.34	0.37	〃	0.35	〃	0.22
2000	4.0	0.50	2.03	2.53	0.37	0.10	0.36	0.46	〃
〃	5.0	0.60	2.37	2.97	0.45	〃	0.38	〃	0.25

(注) 1. [略]
 2. 諸雑費として、管材の0.1%を計上するものとする。
 なお、諸雑費とは接合用滑材の費用及びレバブロックの損料をいう。

4. 単価表

(1) ダクタイル鋳鉄管布設1本当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダクタイル鋳鉄管	○種○mm	本	1	
鋳鉄管接合部品		組	1	K形の場合
諸雑費		式	1	表4.1(注)2
世話役		人		表4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
[削る.]	[削る.]	[削る.]		[削る.]

表 4. 1 ダクタイル鋳鉄管布設歩掛 (1本当たり)

管径 (mm)	管長 (m)	K形				T形			
		世話役	特殊作業員	普通作業員	機械運転時間	世話役	特殊作業員	普通作業員	機械運転時間
		(人)			(日)	(人)			(日)
150	5.0	0.03	0.12	0.16	0.14	0.02	0.09	0.11	0.10
200	〃	0.04	0.14	0.19	〃	0.02	0.10	0.13	0.11
250	〃	0.05	0.15	0.20	0.15	0.02	0.11	0.14	〃
300	6.0	〃	0.18	0.23	0.16	0.04	0.13	0.15	0.12
350	〃	〃	0.20	0.25	0.17	〃	0.14	0.17	0.12
400	〃	〃	0.21	0.26	0.18	〃	〃	0.18	0.13
450	〃	〃	0.22	0.29	〃	〃	0.16	0.19	〃
500	〃	0.06	0.25	0.30	0.19	〃	〃	0.20	〃
600	〃	0.08	0.32	0.40	0.20	〃	0.18	0.23	0.14
700	〃	0.10	0.42	0.52	0.21	〃	0.19	0.25	〃
800	〃	0.13	0.51	0.64	0.22	0.06	0.21	0.27	0.15
900	〃	0.16	0.63	0.79	0.23	〃	0.23	0.28	0.16
1000	〃	0.19	0.74	0.93	0.24	〃	0.24	0.31	〃
1100	〃	0.23	0.88	1.10	0.25	0.07	0.26	0.33	〃
1200	〃	0.26	1.03	1.29	0.26	〃	0.27	0.34	0.17
1350	〃	0.33	1.28	1.61	0.28	〃	0.30	0.37	0.18
1500	〃	0.37	1.51	1.89	0.29	〃	0.31	0.40	〃
1600	4.0	0.32	1.29	1.62	〃	〃	〃	0.39	0.19
〃	5.0	0.38	1.50	1.88	〃	〃	〃	0.41	〃
1650	4.0	0.36	1.39	1.76	0.30	0.08	0.32	0.40	〃
〃	5.0	0.39	1.61	2.03	0.30	〃	〃	0.42	〃
1800	4.0	0.41	1.63	2.03	0.31	〃	0.33	〃	〃
〃	5.0	0.47	1.88	2.34	〃	〃	0.35	〃	〃
2000	4.0	0.50	2.03	2.53	0.33	0.10	0.36	0.46	0.20
〃	5.0	0.60	2.37	2.97	〃	〃	0.38	〃	〃

(注) 1. [略]
 [新設]

4. 単価表

(1) ダクタイル鋳鉄管布設1本当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダクタイル鋳鉄管	○種○mm	本	1	
鋳鉄管接合部品		組	1	K形の場合
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
世話役		人		表3.1、表4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	且		〃

ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 〇〇t吊	日	表3.1、表4.1
バックホウ(クレーン機能付)運	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	〃	〃
計			

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →1.12

⑧~⑫ [略]

⑬ 制水弁据付工(機械)

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

制水弁の据付歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 制水弁機械据付歩掛 (1基当り)

施工区分		据付歩掛			使用機械				
形式	材質	口径	世話役	特殊作業員	普通作業員	フランジ形		フランジレス形	
		(mm)	(人)	(人)	(人)	規格	運転日数(日)	規格	運転日数(日)
仕切弁	樹脂製・ 鑄鉄製	250 ※注)4	0.08	0.31	0.38	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	0.25	-	-
		300					0.28		
		350					0.33		
		400	0.10	0.41	0.52	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第2次基準値) (油圧伸縮 ジブ型) 25t吊	0.41		
		450					0.33		
		500					0.41		
		600	0.14	0.56	0.69	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	0.25		
		700					0.28		
		800					0.33		
		900	0.21	0.85	1.06	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第2次基準値) (油圧伸縮 ジブ型) 25t吊	0.37		
1000	0.48								
1100	0.48								
1200	0.27	1.08	1.35						

ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 〇〇t吊	〃	〃
バックホウ(クレーン機能付)運	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	〃	〃
計			

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械損料数量 →1.12

⑧~⑫ [略]

⑬ 制水弁据付工(機械)

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

制水弁の据付歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 制水弁機械据付歩掛 (1基当り)

施工区分		据付歩掛			使用機械				
形式	材質	口径	世話役	特殊作業員	普通作業員	フランジ形		フランジレス形	
		(mm)	(人)	(人)	(人)	規格	運転時間	規格	運転時間
仕切弁	樹脂製・ 鑄鉄製	250 ※注)4	0.08	0.31	0.38	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	2.02 (hr)	-	-
		300					2.20 (hr)		
		350					0.33 (日)		
		400	0.10	0.41	0.52	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第1次基準値) (油圧伸縮 ジブ型) 25t吊	0.41 (日)		
		450					0.41 (日)		
		500					0.41 (日)		
		600	0.14	0.56	0.69	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t吊	2.02 (hr)		
		700					2.25 (hr)		
		800					2.64 (hr)		
		900	0.21	0.85	1.06	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第1次基準値) (油圧伸縮 ジブ型) 25t吊	2.64 (hr)		
1000	2.96 (hr)								
1100	3.84 (hr)								
1200	0.27	1.08	1.35						

		1350	0.27	1.08	1.35		0.48		
		1500	0.35	1.38	1.72		0.57		

- (注) 1. [略]
 2. バックホウ(クレーン機能付)及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
 3.・4. [略]

4. 単価表

(1) 制水弁機械据付工 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
制水弁		基	1	表 3. 1
世		人		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ(クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 2.9t 吊	旦		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→64 機械賃料数量→1.58

⑭・⑮ [略]

		1350	0.27	1.08	1.35		0.48 (日)		
		1500	0.35	1.38	1.72		0.57 (日)		

- (注) 1. [略]
 2. _____ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 3.・4. [略]

4. 単価表

(1) 制水弁機械据付工 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
制水弁		基	1	表 3. 1
世		人		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ(クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 2.9t 吊	h		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	旦		〃
計				

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 2.9t 吊	機-1	[新設]

⑭・⑮ [略]

8. 道路工

①～③ [略]

④ アスファルト舗装工

1.・2. [略]

3. 施工歩掛（機械施工）

機械施工は、型枠の設置・撤去、瀝青材料散布、敷均し及び締固め作業であり、1.4m以上の舗設工に適用する。ただし、機械施工が困難な場合は人力施工による。

3-1 使用機械

機械施工における使用機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械 (1日・1層当り)

機 種	規 格	単位	施工幅 b (m)			
			車道及び路肩		歩 道	
			1.4 ≤ b ≤ 3.0	3.0 < b	1.4 ≤ b ≤ 3.0	3.0 < b
アスファルト フィニッシャ	排出ガス対策型 (第2次基準値) ホイール型 1.4～3.0m	台	1	—	—	—
〃	排出ガス対策型 (第2次基準値) ホイール型 2.4～6.0m	〃	—	1	—	—
〃	クローラ型 1.4～3.0m	〃	—	—	1	—
〃	クローラ型 2.4～4.5m	〃	—	—	—	1
ロードローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) マカダム 10～12 t	〃	—	1	—	—
タイヤローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 8～20 t	〃	—	1	—	—
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 搭乗式コンパインド型 3～4 t	〃	1	—	1	1

(注) [略]

4. [略]

5. 施工歩掛（アスカーブ設置）

アスファルトカーバによるアスカーブ設置作業に適用する。

5-1 使用機械

アスカーブ設置における使用機械は、次表を標準とする。

表 5. 1 使用機械 (1日当り)

機 種	規 格	単位	数量
アスファルトカーバ	4～4.5m ³ /h	台	1
ダンプトラック	2t積級	〃	1

5-2～5-5 [略]

8. 道路工

①～③ [略]

④ アスファルト舗装工

1.・2. [略]

3. 施工歩掛（機械施工）

機械施工は、型枠の設置・撤去、瀝青材料散布、敷均し及び締固め作業であり、1.4m以上の舗設工に適用する。ただし、機械施工が困難な場合は人力施工による。

3-1 使用機械

機械施工における使用機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械 (1日・1層当り)

機 種	規 格	単位	施工幅 b (m)			
			車道及び路肩		歩 道	
			1.4 ≤ b ≤ 3.0	3.0 < b	1.4 ≤ b ≤ 3.0	3.0 < b
アスファルト フィニッシャ	_____	台	1	—	—	—
〃	_____	〃	—	1	—	—
〃	クローラ型 1.4～3.0m	〃	—	—	1	—
〃	クローラ型 2.4～4.5m	〃	—	—	—	1
ロードローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) マカダム 10～12 t	〃	—	1	—	—
タイヤローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 8～20 t	〃	—	1	—	—
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 搭乗式コンパインド型 3～4 t	〃	1	—	1	1

(注) [略]

4. [略]

5. 施工歩掛（アスカーブ設置）

アスファルトカーバによるアスカーブ設置作業に適用する。

5-1 使用機械

アスカーブ設置における使用機械は、次表を標準とする。

表 5. 1 使用機械 (1日当り)

機 種	規 格	単位	数量
アスファルトカーバ	4～4.5m ³ /h	台	1
ダンプトラック	2t積	〃	1

5-2～5-5 [略]

6. 単価表

(1) 機械施工 舗装工 100㎡・1層当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	表3.2×100/D	表3.2、表3.3
特殊作業員		〃	表3.2×100/D	〃、〃
普通作業員		〃	表3.2×100/D	〃、〃
アスファルト混合物		t	100×厚さ(m)×締固め後密度(t/m³)×(1+補正係数)	表3.4
瀝青材料		ℓ		表3.5
アスファルト運	排出ガス対策型(第2次基準値)ホイール型1.4~3.0m	日	100/D	表3.1、表3.3
〃	排出ガス対策型(第2次基準値)ホイール型2.4~6.0m	〃	100/D	〃、〃
〃	クローラ型1.4~3.0m	〃	100/D	〃、〃
〃	クローラ型2.4~4.5m	〃	100/D	〃、〃
ロードローラ運	排出ガス対策型(第1次基準値)マカダム10~12t	〃	100/D	〃、〃
タイヤローラ運	排出ガス対策型(第1次基準値)8~20t	〃	100/D	〃、〃
振動ローラ運	排出ガス対策型(第1次基準値)搭乗式コンパインド型3~4t	〃	100/D	〃、〃
砂散布費		式	1	表3.6 必要に応じ計上
諸雑費		〃	1	表3.7
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) アスカーブ設置 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表5.2、表5.3
普通作業員		〃	3×100/D	〃、〃
アスファルト混合物		t	断面積(㎡)×100×締固め後密度(t/m³)×(1+補正係数)	表3.4
アスファルトカーバ運転	4~4.5m³/h	日	100/D	表5.1、表5.3
ダンプトラック運	2t積級	〃	100/D	〃、〃
諸雑費		式	1	表5.4
計				

(注) [略]

6. 単価表

(1) 機械施工 舗装工 100㎡・1層当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	表3.2×100/D	表3.2、表3.3
特殊作業員		〃	表3.2×100/D	〃、〃
普通作業員		〃	表3.2×100/D	〃、〃
アスファルト混合物		t	100×厚さ(m)×締固め後密度(t/m³)×(1+補正係数)	表3.4
瀝青材料		ℓ		表3.5
アスファルト運	排出ガス対策型(第2次基準値)ホイール型1.4~3.0m	日	100/D	表3.1、表3.3
〃	排出ガス対策型(第2次基準値)ホイール型2.4~6.0m	〃	100/D	〃、〃
〃	クローラ型1.4~3.0m	〃	100/D	〃、〃
〃	クローラ型2.4~4.5m	〃	100/D	〃、〃
ロードローラ運	排出ガス対策型(第1次基準値)マカダム10~12t	〃	100/D	〃、〃
タイヤローラ運	排出ガス対策型(第1次基準値)8~20t	〃	100/D	〃、〃
振動ローラ運	排出ガス対策型(第1次基準値)搭乗式コンパインド型3~4t	〃	100/D	〃、〃
砂散布費		式	1	表3.6 必要に応じ計上
諸雑費		〃	1	表3.7
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) アスカーブ設置 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表5.2、表5.3
普通作業員		〃	3×100/D	〃、〃
アスファルト混合物		t	断面積(㎡)×100×締固め後密度(t/m³)×(1+補正係数)	表3.4
アスファルトカーバ運転	4~4.5m³/h	日	100/D	表5.1、表5.3
ダンプトラック運	2t積	〃	100/D	〃、〃
諸雑費		式	1	表5.4
計				

(注) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
アスファルト フィニッシャ	排出ガス対策型 (第2次基準値) ホイール型 1.4~3.0m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→22 機械損料数量→1.75
〃	排出ガス対策型 (第2次基準値) ホイール型 2.4~6.0m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→62 機械損料数量→1.75
〃	クローラ型 1.4~3.0m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→21 機械損料数量→1.75
〃	クローラ型 2.4~4.5m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→35 機械損料数量→1.75
ロードローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) マカダム 10~12 t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→35 機械損料数量→1.63
タイヤローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 8~20 t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→41 機械損料数量→1.78
振動ローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式 コンバインド型 3~4 t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→15 機械賃料数量→1.50
〃	ハンドガイド式 0.5~0.6 t	機-23	燃料消費量→2 機械損料数量→1.23
振動コンパクタ	前進型 40~60kg	機-23	燃料消費量→3 機械損料数量→1.40
アスファルト カーバ	4~4.5m ³ /h	機-23	燃料消費量→7 機械損料数量→1.67
ダンプトラック	2 t積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→27 機械損料数量→1.29

⑤ [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
アスファルト フィニッシャ	_____	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→23 機械損料数量→1.75
〃	_____	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→62 機械損料数量→1.75
〃	_____	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→21 機械損料数量→1.75
〃	_____	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→35 機械損料数量→1.75
ロードローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) マカダム 10~12 t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→35 機械損料数量→1.63
タイヤローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 8~20 t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→41 機械損料数量→1.78
振動ローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式 コンバインド型 3~4 t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→15 機械賃料数量→1.50
〃	ハンドガイド式 0.5~0.6 t	機-23	燃料消費量→2 機械損料数量→1.23
振動コンパクタ	前進型 40~60kg	機-23	燃料消費量→3 機械損料数量→1.40
アスファルト カーバ	4~4.5m ³ /h	機-23	燃料消費量→7 機械損料数量→1.67
ダンプトラック	2 t積	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→27 機械損料数量→1.29

⑤ [略]

⑥ 砂利舗装工

1. ～ 5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 普通3t級	機-1	
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	機-1	
小型バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)	機-30	運転時間=5.7hr/日
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3.0～4.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>12</u> 機械賃料数量→1.26
〃	ハンドガイド式 0.5～0.6t	機-23	燃料消費量→2 機械損料数量→1.74

⑦・⑧ [略]

⑨ 道路附帯工

1.・2. [略]

3. 暗渠排水管布設

3-1 適用範囲

本歩掛は、暗渠排水管(硬質ポリ塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管)の布設作業に適用する。
ただし、管水路工事、水路工事及びほ場整備工事等には適用しない。

3-2～3-5 [略]

4. [略]

⑩ [略]

⑥ 砂利舗装工

1. ～ 5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 普通3t級	機-1	
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	機-1	
小型バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)	機-30	運転時間=5.7hr/日
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3.0～4.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>10</u> 機械賃料数量→1.26
〃	ハンドガイド式 0.5～0.6t	機-23	燃料消費量→2 機械損料数量→1.74

⑦・⑧ [略]

⑨ 道路附帯工

1.・2. [略]

3. 暗渠排水管布設

3-1 適用範囲

本歩掛は、暗渠排水管(硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管)の布設作業に適用する。
ただし、管水路工事、水路工事及びほ場整備工事等には適用しない。

3-2～3-5 [略]

4. [略]

⑩ [略]

9. ほ場整備工

① ほ場整備整地工

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は湿地ブルドーザ排出ガス対策型(第2次基準値)16t級及びバックホウ排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型山積0.8m³(平積0.6m³)を標準とする。

4. [略]

5. 単価表

(1) ほ場整備整地工 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地16t級	h	TD	
バックホウ運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	TB	
世話役		人	TR ₁	表4.4
普通作業員		〃	TR ₂	〃
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地16t級	機-1	
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	

9. ほ場整備工

① ほ場整備整地工

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は湿地ブルドーザ排出ガス対策型(第1次基準値)16t級及びバックホウ排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型山積0.8m³(平積0.6m³)を標準とする。

4. [略]

5. 単価表

(1) ほ場整備整地工 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 湿地16t級	h	TD	
バックホウ運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	TB	
世話役		人	TR ₁	表4.4
普通作業員		〃	TR ₂	〃
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 湿地16t級	機-1	
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	

② [略]

③ 暗渠排水工

1.・2. [略]

3. 機種の選定

3-1～3-3 [略]

3-4 小運搬機械

小運搬に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表3.4 機種選定の選定

資材名	機械名	規格
暗渠排水管（定尺管） 土管・陶管 もみ殻、粗朶類	不整地運搬車	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型油圧ダンプ式積載質量2.0t
暗渠排水管（ロール管） 砕石	不整地運搬車	クローラ型油圧ダンプ式積載質量3.0t

(注) 1. 暗渠排水管（定尺管）は、硬質ポリ塩化ビニル管及び硬質ポリエチレン製管、合成樹脂網管のL=4.00～5.00m/本の場合である。

2. [略]

4. [略]

5. 単価表

(1)～(8) [略]

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トレンチャ	自走式・普通型 クローラ35kW	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33 機械損料数量→1.18
バックホウ	排出ガス対策型 （第1次基準値） クローラ型 山積0.28 m ³ （平積0.20 m ³ ）	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→41 機械損料数量→1.50
不整地運搬車	排出ガス対策型 （第1次基準値） クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量2.0t	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→19 機械損料数量→1.55
不整地運搬車	クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量3.0t	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→27 機械損料数量→1.55

④・⑤ [略]

② [略]

③ 暗渠排水工

1.・2. [略]

3. 機種の選定

3-1～3-3 [略]

3-4 小運搬機械

小運搬に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表3.4 機種選定の選定

資材名	機械名	規格
暗渠排水管（定尺管） 土管・陶管 もみ殻、粗朶類	不整地運搬車	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型油圧ダンプ式積載質量2.0t
暗渠排水管（ロール管） 砕石	不整地運搬車	クローラ型油圧ダンプ式積載質量3.0t

(注) 1. 暗渠排水管（定尺管）は、硬質塩化ビニル管及び硬質ポリエチレン製管、合成樹脂網管のL=4.00～5.00m/本の場合である。

2. [略]

4. [略]

5. 単価表

(1)～(8) [略]

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トレンチャ	自走式・普通型 クローラ35kW	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33 機械損料数量→1.18
バックホウ	排出ガス対策型 （第1次基準値） クローラ型 山積0.28 m ³ （平積0.20 m ³ ）	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→41 機械損料数量→1.50
不整地運搬車	排出ガス対策型 （第1次基準値） クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量2.0t	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→6.9 機械損料数量→1.55
不整地運搬車	クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量3.0t	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→9.5 機械損料数量→1.55

④・⑤ [略]

11. トンネル工

① 岩トンネル（レッグ工法）

1. ～6. [略]

7. 覆工コンクリート

7-1・7-2 [略]

7-3 覆工機械歩掛

覆工機械の機種及び規格は、次表を標準とする。

表 7.3 機種を選定

機種	規格	台数	摘要
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30～35 m ³ /hr	1	
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3 m ³	1	坑口距離 400m超
機関車	整流器付 バッテリー式 機関車質量 6.0t	1	坑口距離 400m超

(注) 坑口距離 400m以下は、コンクリートポンプを坑外に配置して配管打設、坑口距離 400m超は、コンクリートポンプを坑内に配置しアジテータカー運搬による運搬打設とする。

表 7.4 覆工機械歩掛

①坑口距離 400m以下 [略]

②坑口距離 400m超 800m以下

(週/m)

機種	覆工断面積										
	2.2 m ²	2.4 m ²	2.6 m ²	2.8 m ²	3.0 m ²	3.2 m ²	3.4 m ²	3.7 m ²	4.0 m ²	4.3 m ²	4.6 m ²
コンクリートポンプ	0.012	0.013	0.014	0.015	0.016	0.017	0.018	0.019	0.021	0.023	0.024
アジテータカー	0.013	0.014	0.015	0.017	0.018	0.019	0.020	0.022	0.024	0.026	0.027
機関車	0.015	0.017	0.018	0.019	0.021	0.022	0.023	0.026	0.028	0.030	0.032

③坑口距離 800m超 1,400m以下

(週/m)

機種	覆工断面積										
	2.2 m ²	2.4 m ²	2.6 m ²	2.8 m ²	3.0 m ²	3.2 m ²	3.4 m ²	3.7 m ²	4.0 m ²	4.3 m ²	4.6 m ²
コンクリートポンプ	0.012	0.013	0.014	0.015	0.016	0.017	0.018	0.019	0.021	0.023	0.024
アジテータカー	0.017	0.019	0.020	0.022	0.023	0.025	0.026	0.029	0.031	0.033	0.036
機関車	0.020	0.022	0.024	0.025	0.027	0.029	0.031	0.034	0.036	0.039	0.042

④坑口距離 1,400m超 2,000m以下

(週/m)

機種	覆工断面積										
	2.2 m ²	2.4 m ²	2.6 m ²	2.8 m ²	3.0 m ²	3.2 m ²	3.4 m ²	3.7 m ²	4.0 m ²	4.3 m ²	4.6 m ²
コンクリートポンプ	0.012	0.013	0.014	0.015	0.016	0.017	0.018	0.019	0.021	0.023	0.024
アジテータカー	0.022	0.024	0.026	0.028	0.030	0.032	0.034	0.037	0.040	0.043	0.046
機関車	0.026	0.028	0.030	0.033	0.035	0.037	0.040	0.043	0.047	0.050	0.053

7-4～7-6 [略]

11. トンネル工

① 岩トンネル（レッグ工法）

1. ～6. [略]

7. 覆工コンクリート

7-1・7-2 [略]

7-3 覆工機械歩掛

覆工機械の機種及び規格は、次表を標準とする。

表 7.3 機種を選定

機種	規格	台数	摘要
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30～35 m ³ /hr	1	
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3 m ³	1	坑口距離 400m超
機関車	整流器付 バッテリー式 機関車質量 6.0t	1	坑口距離 400m超

(注) 坑口距離 400m以下は、コンクリートポンプを坑外に配置して配管打設、坑口距離 400m超は、コンクリートポンプを坑内に配置しアジテータカー運搬による運搬打設とする。

表 7.4 覆工機械歩掛

①坑口距離 400m以下 [略]

②坑口距離 400m超 800m以下

(週/m)

機種	覆工断面積										
	2.2 m ²	2.4 m ²	2.6 m ²	2.8 m ²	3.0 m ²	3.2 m ²	3.4 m ²	3.7 m ²	4.0 m ²	4.3 m ²	4.6 m ²
コンクリートポンプ	0.012	0.013	0.014	0.015	0.016	0.017	0.018	0.019	0.021	0.023	0.024
アジテータカー	0.013	0.014	0.015	0.017	0.018	0.019	0.020	0.022	0.024	0.026	0.027
機関車	0.015	0.017	0.018	0.019	0.021	0.022	0.023	0.026	0.028	0.030	0.032

③坑口距離 800m超 1,400m以下

(週/m)

機種	覆工断面積										
	2.2 m ²	2.4 m ²	2.6 m ²	2.8 m ²	3.0 m ²	3.2 m ²	3.4 m ²	3.7 m ²	4.0 m ²	4.3 m ²	4.6 m ²
コンクリートポンプ	0.012	0.013	0.014	0.015	0.016	0.017	0.018	0.019	0.021	0.023	0.024
アジテータカー	0.017	0.019	0.020	0.022	0.023	0.025	0.026	0.029	0.031	0.033	0.036
機関車	0.020	0.022	0.024	0.025	0.027	0.029	0.031	0.034	0.036	0.039	0.042

④坑口距離 1,400m超 2,000m以下

(週/m)

機種	覆工断面積										
	2.2 m ²	2.4 m ²	2.6 m ²	2.8 m ²	3.0 m ²	3.2 m ²	3.4 m ²	3.7 m ²	4.0 m ²	4.3 m ²	4.6 m ²
コンクリートポンプ	0.012	0.013	0.014	0.015	0.016	0.017	0.018	0.019	0.021	0.023	0.024
アジテータカー	0.022	0.024	0.026	0.028	0.030	0.032	0.034	0.037	0.040	0.043	0.046
機関車	0.026	0.028	0.030	0.033	0.035	0.037	0.040	0.043	0.047	0.050	0.053

7-4～7-6 [略]

8. 単価表

8-1 岩トンネル(レグ工法) [略]

8-2 コンクリート単価表

(1) コンクリート覆工1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表7.2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
生コンクリート		m ³		表7.5
コンクリートポンプ運転	油圧・定置式 圧送能力 30~35 m ³ /hr	週		表7.4 機械運転単価表×5
アジテータカー運転	被けん引式 運搬容量 3 m ³	〃		表7.4 機械運転単価表×5
機関車(整流器付)運転	バッテリー式 機関車質量 6.0t	〃		表7.4 機械運転単価表×5
諸雑費		式	1	表7.6

(2) 機械運転単価表

① [略]

②坑口距離 400m超 2,000m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30~35 m ³ /hr	機-25	使用電力量→105 機械損料数量→1.57
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3 m ³	〃	使用電力量→44 機械損料数量→1.75
機関車(整流器付)	バッテリー式 機関車質量 6.0t	〃	使用電力量→489 機械損料数量→1.69

(3) [略]

②・③ [略]

8. 単価表

8-1 岩トンネル(レグ工法) [略]

8-2 コンクリート単価表

(1) コンクリート覆工1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表7.2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
生コンクリート		m ³		表7.5
コンクリートポンプ運転	油圧・定置式 圧送能力 30~35 m ³ /hr	週		表7.4 機械運転単価表×5
アジテータカー運転	被けん引式 運搬容量 3 m ³	〃		表7.4 機械運転単価表×5
機関車(整流器付)運転	バッテリー式 機関車質量 6.0t	〃		表7.4 機械運転単価表×5
諸雑費		式	1	表7.6

(2) 機械運転単価表

① [略]

②坑口距離 400m超 2,000m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30~35 m ³ /hr	機-25	使用電力量→105 機械損料数量→1.57
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3 m ³	〃	使用電力量→44 機械損料数量→1.75
機関車(整流器付)	バッテリー式 機関車質量 6.0t	〃	使用電力量→489 機械損料数量→1.69

(3) [略]

②・③ [略]

12. 地すべり防止工

①・② [略]

③ 集排水ボーリング工

1.・2. [略]

3. 地表ボーリング

3-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 3.1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台 数
ボーリングマシン	油圧 5.5kW級	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~700/分、4.0kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	1

(注) 1.・2. [略]

3-2~3-4 [略]

4. 集水井内ボーリング

4-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 4.1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台 数
ボーリングマシン	油圧 5.5kW級	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~700/分、4.0kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	1

(注) 1.・2. [略]

4-2~4-4 [略]

5. 保孔管挿入工

5-1

5-2 保孔管材料

保孔管及びソケットの使用量は、次表を標準とする。

表 5.2 保孔管の使用量 (10m当り)

施 工 区 分	管 (本)	ソケット (個)
地 表	2.58	-
集 水 井 内	2.65	2.50

(注) 1. 硬質ポリ塩化ビニル有孔管は、TS片スリーブ VP管とする。
2. 硬質ポリ塩化ビニル管は、呼称径 40mmとする。
3. 硬質ポリ塩化ビニル管の数量には、管の切断ロスを含む。

6.・7. [略]

12. 地すべり防止工

①・② [略]

③ 集排水ボーリング工

1.・2. [略]

3. 地表ボーリング

3-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 3.1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台 数
ボーリングマシン	油圧 5.5kW	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~700/分、4.4kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	1

(注) 1.・2. [略]

3-2~3-4 [略]

4. 集水井内ボーリング

4-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 4.1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台 数
ボーリングマシン	油圧 5.5kW	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~700/分、4.4kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	1

(注) 1.・2. [略]

4-2~4-4 [略]

5. 保孔管挿入工

5-1

5-2 保孔管材料

保孔管及びソケットの使用量は、次表を標準とする。

表 5.2 保孔管の使用量 (10m当り)

施 工 区 分	管 (本)	ソケット (個)
地 表	2.58	-
集 水 井 内	2.65	2.50

(注) 1. 硬質塩化ビニル有孔管は、TS片スリーブ VP管とする。
2. 硬質塩化ビニル管は、呼称径 40mmとする。
3. 硬質塩化ビニル管の数量には、管の切断ロスを含む。

6.・7. [略]

④ [略]

⑤ かご工

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.50m ³ (平積0.40m ³)	機-1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式2 t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>8.4</u> 機械賃料数量→1.71

⑥ 山腹水路工

1. ~ 7. [略]

8. 単価表

(1)~(7) [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付) (集水樹工)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 吊能力1.7t	機-1	
バックホウ(クレーン機能付) (山腹集水路・排水路工) (山腹明暗渠工) (山腹暗渠工)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 吊能力1.7t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45 機械損料数量→1.56
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5 t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>12</u> 機械賃料数量→1.66

④ [略]

⑤ かご工

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.50m ³ (平積0.40m ³)	機-1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式2 t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>4.0</u> 機械賃料数量→1.71

⑥ 山腹水路工

1. ~ 7. [略]

8. 単価表

(1)~(7) [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付) (集水樹工)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 吊能力1.7t	機-1	
バックホウ(クレーン機能付) (山腹集水路・排水路工) (山腹明暗渠工) (山腹暗渠工)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 吊能力1.7t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45 機械損料数量→1.56
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5 t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>4.6</u> 機械賃料数量→1.66

13. コンクリート補修工

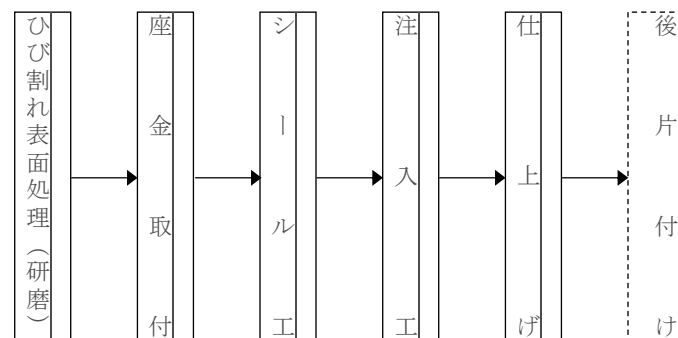
① ひび割れ補修工

1. [略]

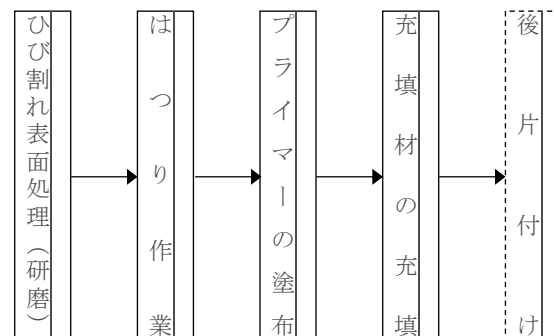
2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

(1) ひび割れ低圧注入工



(2) ひび割れ充填工



(注) [略]

3. ひび割れ表面処理工（研磨工）

本歩掛は、人力によりワイヤブラシを使用してひび割れ部のレイトンスや塵芥の除去を行う表面処理に適用する。

3-1 施工歩掛

ひび割れ表面処理工（研磨工）の施工歩掛は、次表を標準とする。

なお、表面処理工の施工幅は、9cm程度である。

表 3.1 施工歩掛 (10m当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.32

(注) 表面処理（高圧洗浄）を実施する場合は、適用しない。

4. ~ 6. [略]

13. コンクリート補修工

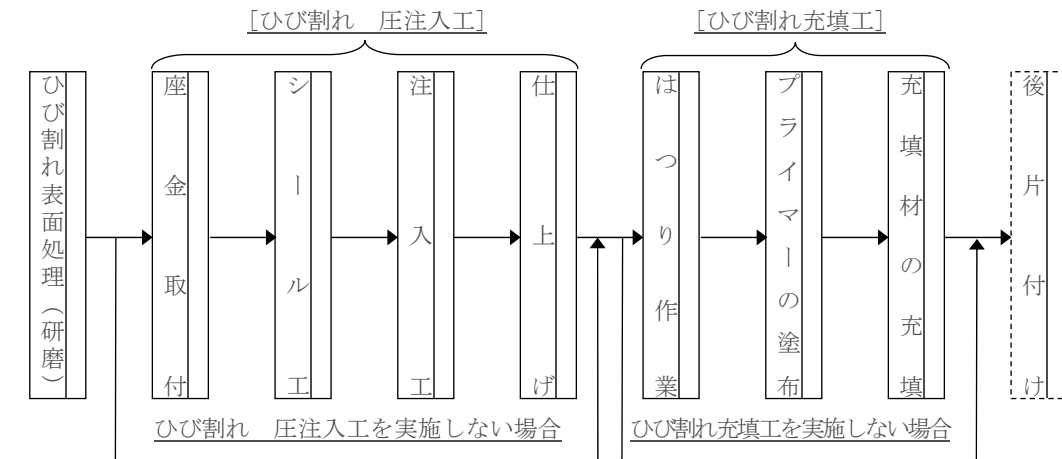
① ひび割れ補修工

1. [略]

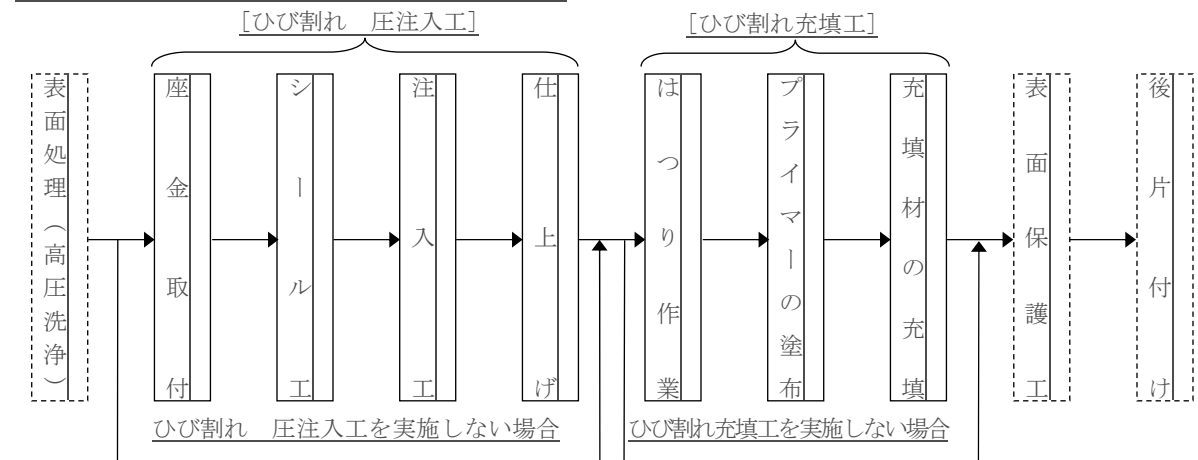
2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

(1) ひび割れ補修後に表面保護工を実施しない場合



(2) ひび割れ補修後に表面保護工を実施する場合



(注) [略]

3. ひび割れ表面処理工（研磨工）

本歩掛は、人力によりワイヤブラシを使用してひび割れ部のレイトンスや塵芥の除去を行う表面処理に適用する。

3-1 施工歩掛

ひび割れ表面処理工（研磨工）の施工歩掛は、次表を標準とする。

なお、表面処理工の施工幅は、9cm程度である。

表 3.1 施工歩掛 (10m当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.32

[新設]

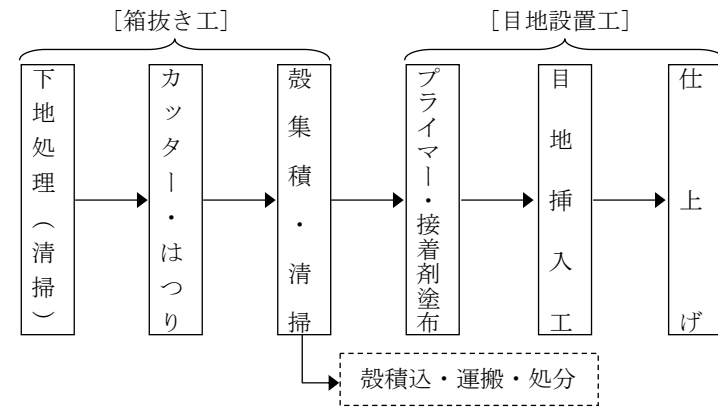
4. ~ 6. [略]

② 開水路目地補修工（成型ゴム挿入工）

1. 適用範囲 [略]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 1.・2. [略]

3. 水替え、目地部湧水処理、機械による強制乾燥及び箱抜き部の断面修復工が必要な場合は、別途計上する。

3.・4. [略]

③ 開水路目地補修工（充填工）

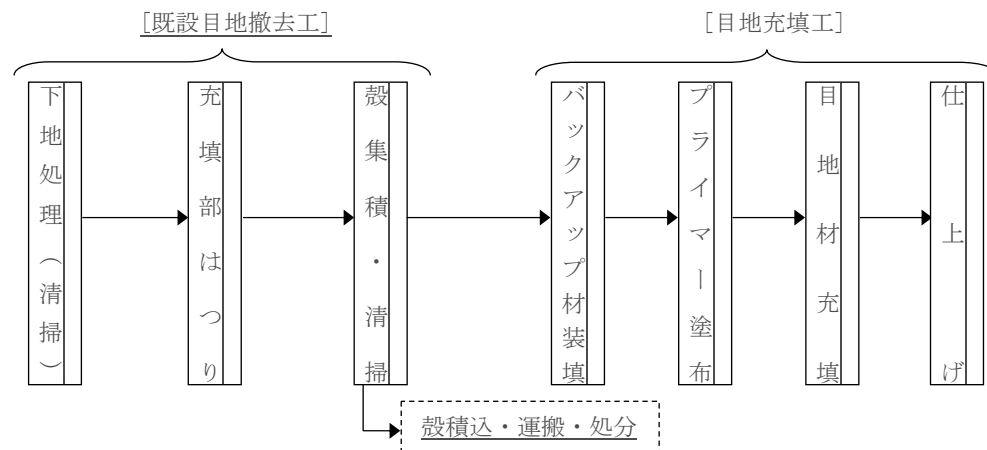
1. 適用範囲

本歩掛は、現場打ちコンクリート水路、コンクリート二次製品水路の開水路目地補修工のうち、目地材料を弾性シーリング材（シリコン系、変成シリコン系、ポリウレタン系）とした充填工法に適用する。

適用範囲は、目地幅 10mm 以上 40mm 以下、目地深さ 5mm 以上 30mm 以下とする。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 1. 本歩掛に対応しているのは、実線部分のみである。

2. 殻集積には、水路外への殻上げを含んでいる。

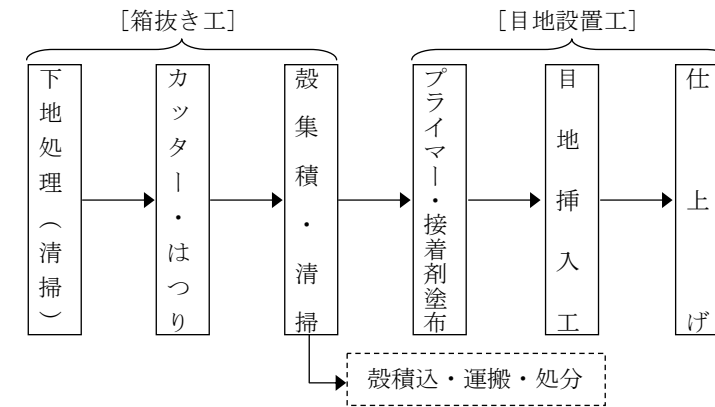
3. 水替え、目地部湧水処理、機械による強制乾燥が必要な場合は、別途計上する。

② 開水路目地補修工（成型ゴム挿入工）

1. 適用範囲 [略]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 1.・2. [略]

3. 水替え、目地部湧水処理及び箱抜き部の断面修復工が必要な場合は、別途計上する。

3.・4. [略]

[新設]

3. 施工歩掛

3-1 既設目地撤去工

既設目地撤去工歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 既設目地撤去工歩掛 (100m当り)

名 称	単 位	作業区分	
		機械はつり	人力はつり
世 話 役	人	1.6	1.2
特 殊 作 業 員	〃	3.8	-
普 通 作 業 員	〃	3.4	4.2
諸 雑 費 率	%	16	-

(注) 1. 諸雑費は、ディスクグラインダ、ハンマドリルの損料、コンクリートカッタープレート損耗費及び発動発電機の運転にかかる費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

2. 作業区分は以下を標準とする。

・機械はつり

機械によるカッター入れ・はつり作業により、目地幅の拡幅や既設目地撤去を行う場合。

・人力はつり

既設目地幅と計画目地幅が同等などにより、機械による既設コンクリートのカッター入れ・はつり作業が不要で、人力によりノミ等を用いて既設目地をはつりとする場合。

3-2 目地充填工

3-2-1 施工歩掛

目地充填工労務歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 2 目地充填工労務歩掛 (100m当り)

名 称	単 位	数 量
世 話 役	人	1.5
特 殊 作 業 員	〃	5.8
普 通 作 業 員	〃	2.2

3-2-2 使用材料

充填材及びプライマーの材料使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (0)} = \text{設計量 (0)} \times (1+K) \dots \dots \dots \text{(式 3.1)}$$

K：補正係数

表 3. 3 補正係数 (K)

名 称	補正係数
充 填 材	+0.20
プ ラ イ マ ー	+0.20

3-2-3 諸雑費

諸雑費は、バックアップ材、養生テープの材料費であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 3. 4 諸雑费率 (%)

諸 雑 費 率	11(4)
---------	-------

(注) ()内はバックアップ材を使用しない場合である。

4. 単価表

(1) 既設目地撤去工 100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 3. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃 機械はつりの場合
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃 機械はつりの場合
計				

(2) 目地充填工 100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 3. 2
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
充 填 材		0		式 3. 1、表 3. 3
プ ラ イ マ ー		//		//
諸 雑 費		式	1	表 3. 4
計				

14. 復旧工

① [略]

② 耕地表土掘削・埋戻（機械）

1.・2 [略]

3. 機種の設定

表土掘削・埋戻作業に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種の設定

機 械 名	規 格
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）

4. [略]

5. 単価表

（1）表土掘削、表土埋戻 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）	時間		表 4. 1
計				

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
表 土 掘 削 バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）	機-1	
表 土 埋 戻 バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）	機-1	

③ [略]

14. 復旧工

① [略]

② 耕地表土掘削・埋戻（機械）

1.・2 [略]

3. 機種の設定

表土掘削・埋戻作業に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種の設定

機 械 名	規 格
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）

4. [略]

5. 単価表

（1）表土掘削、表土埋戻 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）	時間		表 4. 1
計				

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
表 土 掘 削 バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）	機-1	
表 土 埋 戻 バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）	機-1	

③ [略]

15. 仮設工

①～③ [略]

④ 締切排水工

1. ～3. [略]

4. 施工歩掛

4-1 [略]

4-2 据付・撤去歩掛

ポンプの据付・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 4.3 据付・撤去歩掛 (1箇所)

名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役	—	人	0.5
特 殊 作 業 員	—	〃	0.1
普 通 作 業 員	—	〃	2.0
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3)2.9t吊	日	0.5

(注) 1. バックホウ(クレーン機能付)は、賃料とする。
2. ～5. [略]
6. バックホウ(クレーン機能付)は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

5. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) ポンプ据付・撤去1箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.3
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3) 2.9t吊	日		〃
計				

15. 仮設工

①～③ [略]

④ 締切排水工

1. ～3. [略]

4. 施工歩掛

4-1 [略]

4-2 据付・撤去歩掛

ポンプの据付・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 4.3 据付・撤去歩掛 (1箇所)

名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役	—	人	0.5
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
普 通 作 業 員	—	〃	2.2
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日	0.6

(注) 1. トラッククレーンは、賃料とする。
2. ～5. [略]
[新設]

5. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) ポンプ据付・撤去1箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.3
[新設]		[新設]		[新設]
普 通 作 業 員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日		〃
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
工 事 用 水 中 ポ ン プ	150×1 200×1 150×1 200×2 200×5	機-32	(常時排水) 口径×台数 電力消費量 150×1→105 200×1→154 150×1 } 413 200×2 } 200×5→770 機械賃料数量→1.1 (作業時排水) 口径×台数 電力消費量 150×1→35 200×1→51 150×1 } 137 200×2 } 200×5→255 機械賃料数量→1.2
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第2次基準値) ディーゼルエンジン駆動 20kVA 25kVA 60kVA 100kVA	機-16	(常時排水) 燃料消費量→20kVA→77 25kVA→94 60kVA→233 100kVA→384 機械賃料数量→1.1 (作業時排水) 燃料消費量→20kVA→26 25kVA→31 60kVA→78 100kVA→128 機械賃料数量→1.2
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→77 機械賃料数量→1.16

⑤~⑦ [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
工 事 用 水 中 ポ ン プ	150×1 200×1 150×1 200×2 200×5	機-32	(常時排水) 口径×台数 電力消費量 150×1→105 200×1→154 150×1 } 413 200×2 } 200×5→770 機械賃料数量→1.1 (作業時排水) 口径×台数 電力消費量 150×1→35 200×1→51 150×1 } 137 200×2 } 200×5→255 機械賃料数量→1.2
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 20kVA 25kVA 60kVA 100kVA	機-16	(常時排水) 燃料消費量→20kVA→77 25kVA→94 60kVA→233 100kVA→384 機械賃料数量→1.1 (作業時排水) 燃料消費量→20kVA→26 25kVA→31 60kVA→78 100kVA→128 機械賃料数量→1.2
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

⑤~⑦ [略]

⑧ たて込み簡易土留

1.・2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は次表を標準とする。

表 3. 1 掘削・たて込み作業、引抜作業

掘削幅	最大掘削深	バックホウ（クレーン機能付）規格
0.90m以上～1.10m未満	3mまで	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型・後方超小旋回型 山積 0.28 m ³ （平積 0.20 m ³ ）1.7t 吊
1.10m以上～1.35m未満	4mまで	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）2.9t 吊
1.35m以上～4.70m以下	6mまで	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80 m ³ （平積 0.60 m ³ ）2.9t 吊

（注） [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

（1）たて込み簡易土留掘削・たて込み作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クレーン機能付）運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積〇〇m ³ （平積〇〇m ³ ）〇〇t 吊	h	表 4.1×10	表 4. 1
世話役		人	表 4.1×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
計				

（2）たて込み簡易土留引抜作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クレーン機能付）運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積〇〇m ³ （平積〇〇m ³ ）〇〇t 吊	h	表 4.2×10	表 4. 2
世話役		人	表 4.2×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
計				

（3）機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クレーン機能付）	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型・後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）1.7t 吊	機-1	
	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）2.9t 吊	〃	
	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）2.9t 吊	〃	

⑧ たて込み簡易土留

1.・2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は次表を標準とする。

表 3. 1 掘削・たて込み作業、引抜作業

掘削幅	最大掘削深	バックホウ（クレーン機能付）規格
0.90m以上～1.10m未満	3mまで	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・後方超小旋回型 山積 0.28 m ³ （平積 0.20 m ³ ）1.7t 吊
1.10m以上～1.35m未満	4mまで	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）2.9t 吊
1.35m以上～4.70m以下	6mまで	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.80 m ³ （平積 0.60 m ³ ）2.9t 吊

（注） [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

（1）たて込み簡易土留掘削・たて込み作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クレーン機能付）運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積〇〇m ³ （平積〇〇m ³ ）〇〇t 吊	h	表 4.1×10	表 4. 1
世話役		人	表 4.1×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
計				

（2）たて込み簡易土留引抜作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クレーン機能付）運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積〇〇m ³ （平積〇〇m ³ ）〇〇t 吊	h	表 4.2×10	表 4. 2
世話役		人	表 4.2×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
計				

（3）機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クレーン機能付）	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）1.7t 吊	機-1	
	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）2.9t 吊	〃	
	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型 山積 0.80m ³ （平積 0.60m ³ ）2.9t 吊	〃	

⑨・⑩ [略]

⑪ 土工用マット敷設

1. [略]

2. 施工歩掛

土木安定用材（マット、シート類）の敷設、撤去歩掛は次表を標準とする。

表 2. 1 土木安定用材（マット、シート等）類敷設、撤去歩掛（100m²当り）

施工区分	普通作業員（人）	備 考
敷 設	0.16	材料の重ね代は4%とする
撤 去	0.32	

(注) [略]

3. [略]

⑫ 敷鉄板設置撤去

1. 適用範囲

本歩掛は、敷鉄板の設置又は撤去作業に適用する。

2. [略]

3. 施工歩掛

敷鉄板の1000 m²当りの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 設置・撤去歩掛（1000 m²当り）

名 称	規 格	単 位	設 置	撤 去
特 殊 作 業 員		人	1.5	1.4
普 通 作 業 員		〃	1.5	1.4
バックホウ (クレーン機能付き)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t 吊	日	1.5	1.4

(注) 1. 敷鉄板及びバックホウ(クレーン機能付)は、賃料とする。
 2. 本歩掛には設置時の敷鉄板取り卸し、撤去時の敷鉄板積み込みを含む。
 3. バックホウ(クレーン機能付)は、「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

4. 単価表

(1) 敷鉄板設置 1000 m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表 3. 1
普 通 作 業 員		〃		〃
バックホウ (クレーン機能付)運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t 吊	日		〃
計				

⑨・⑩ [略]

⑪ 土工用マット敷設

1. [略]

2. 施工歩掛

土木安定用材（マット、シート類）の敷設、撤去歩掛は次表を標準とする。

表 2. 1 土木安定用材（マット、シート等）類敷設、撤去歩掛（100m²当り）

施工区分	普通作業員（人）	備 考
敷 設	0.16	材料の重ね代は4%とする
撤 去	0.36	

(注) [略]

3. [略]

⑫ 敷鋼板設置撤去

1. 適用範囲

本歩掛は、敷鋼板を設置又は撤去する作業に適用する。

2. [略]

3. 施工歩掛

敷鋼板の1000 m²当りの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 設置・撤去歩掛（1000 m²当り）

名 称	規 格	単 位	設 置	撤 去
特 殊 作 業 員		人	1.1	1.0
普 通 作 業 員		〃	2.3	2.0
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型4.9t 吊	日	1.3	1.2

(注) 1. 敷鋼板及びトラッククレーンは、賃料とする。
 2. 本歩掛には設置時の敷鋼板取り卸し、撤去時の敷鋼板積み込みを含む。
 [新設]

4. 単価表

(1) 敷鋼板設置 1000 m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表 3. 1
普 通 作 業 員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t 吊	日		〃
計				

(2) 敷鉄板撤去 1000 m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 3. 1
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クレーン機能付き)運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)2.9t 吊	日		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付き)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→127 機械賃料数量→1.18

⑬～⑰ [略]

(2) 敷鋼板撤去 1000 m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 3. 1
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日		〃
計				

[新設]

⑬～⑰ [略]